

改正	1952（昭和27）年4月1日	1959（昭和34）年4月1日
	1963（昭和38）年4月1日	1964（昭和39）年4月1日
	1965（昭和40）年4月1日	1967（昭和42）年4月1日
	1968（昭和43）年4月1日	1969（昭和44）年1月6日
	1969（昭和44）年4月1日	1972（昭和47）年4月1日
	1973（昭和48）年4月1日	1974（昭和49）年4月1日
	1975（昭和50）年4月1日	1976（昭和51）年4月1日
	1977（昭和52）年4月1日	1979（昭和54）年4月1日
	1980（昭和55）年4月1日	1981（昭和56）年4月1日
	1982（昭和57）年4月1日	1983（昭和58）年4月1日
	1984（昭和59）年4月1日	1985（昭和60）年4月1日
	1986（昭和61）年4月1日	1987（昭和62）年4月1日
	1988（昭和63）年4月1日	1988（昭和63）年10月1日
	1989（平成1）年4月1日	1990（平成2）年4月1日
	1991（平成3）年4月1日	1991（平成3）年7月1日
	1992（平成4）年4月1日	1993（平成5）年4月1日
	1994（平成6）年4月1日	1995（平成7）年4月1日
	1996（平成8）年4月1日	1997（平成9）年4月1日
	1997（平成9）年10月1日	1998（平成10）年4月1日
	1999（平成11）年4月1日	2000（平成12）年4月1日
	2001（平成13）年4月1日	2002（平成14）年4月1日
	2003（平成15）年4月1日	2004（平成16）年4月1日
	2005（平成17）年4月1日	2006（平成18）年4月1日
	2007（平成19）年4月1日	2008（平成20）年4月1日
	2009（平成21）年4月1日	2010（平成22）年4月1日
	2011（平成23）年4月1日	2012（平成24）年4月1日
	2013（平成25）年4月1日	2014（平成26）年4月1日
	2015（平成27）年4月1日	2016（平成28）年4月1日
	2017（平成29）年4月1日	2018（平成30）年4月1日

第1章 総則

（目的）

第1条 本学は、教育基本法に基づき、学校教育法の定める大学として学術の教授研究を行うとともに、キリスト教の精神にしたがい、円満な人格を涵養し、国際的視野に立って建設的に、かつ責任をもって生活し得る女性を育成することを目的とする。

（自己点検・評価等）

第2条 本学は、その教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、文部科学大臣の定めるところにより、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。

2 前項の点検及び評価に関する規程は、別に定める。

3 本学は、第1項の点検及び評価の結果について、政令で定める期間ごとに文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受けるものとする。

（情報の公表）

第2条の2 本学は教育研究活動等の状況について、適切な体制を整えたうえで、刊行物への掲載、インターネットの利用その他広く周知を図ることができる方法によって、公表するものとする。

(教育研究上の目的)

第2条の3 本学は、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学部、学科又は専攻ごとに〔別表1〕のとおり定めるものとする。

(本学の性格)

第3条 本学の性格は、リベラル・アーツ (Liberal Arts) の大学として規定する。

第2章 学部学科等の組織及び学生定員

(学部学科等の組織及び学生定員)

第4条 本学に次の学部を置く。

学芸学部、現代社会学部、薬学部、看護学部、表象文化学部、生活科学部

2 前項の各学部に置く学科、専攻及びその学生定員は次の表のとおりとする。

学部	学科等	入学定員	編入学定員 (第3年次)	収容定員
学芸学部	音楽学科演奏専攻	75名	—	300名
	音楽学科音楽文化専攻	40名	—	160名
	メディア創造学科	120名	—	480名
	国際教養学科	80名	—	320名
現代社会学部	社会システム学科	300名	—	1,200名
	現代こども学科	100名	—	400名
薬学部	医療薬学科	120名	—	720名
看護学部	看護学科	80名	—	320名
表象文化学部	英語英文学科	145名	—	580名
	日本語日本文学科	120名	—	480名
生活科学部	人間生活学科	80名	—	320名
	食物栄養科学科			
	食物科学専攻	55名	—	220名
	食物栄養科学科 管理栄養士専攻	80名	—	320名

(専攻科)

第4条の2 本学に音楽専攻科を置く。

2 音楽専攻科の学生定員は次のとおりとする。

音楽専攻科 入学定員 20名

収容定員 20名

3 音楽専攻科に関して必要な事項については、別に定める。

(大学院)

第5条 本学に大学院を置く。

2 大学院の学則は、別に定める。

第3章 学年、学期及び休業日

(学年)

第6条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

(学期)

第7条 学年を春学期、秋学期の2学期に分ける。なお、期間については、別に定める本学の学年暦による。

2 1年間の授業は原則として35週にわたり行うものとする。ただし、定期試験等の期間を含む。

(休業日)

第8条 休業日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 「国民の祝日に関する法律」に定める日

(3) 創立記念日 11月29日

(4) キリスト降誕日（クリスマス）12月25日

(5) 春期、夏期及び冬期休業に関しては、別に定める本学の学年暦による。

2 前項に規定する休業日において、必要ある場合は授業その他を行うことがある。また、休業日は臨時に定めることができる。

第4章 修業年限及び在学年限

(修業年限)

第9条 学部修業年限は4年とする。

ただし、薬学部の修業年限は6年とする。

(在学年限)

第10条 学芸学部、現代社会学部、看護学部、表象文化学部及び生活科学部の在学年限は8年を超えることができない。

ただし、第17条の規定により編入学した学生は、4年を超えて在学することができない。

また、第17条の2の規定により転入学した学生は、6年を超えて在学することができない。

2 薬学部の在学年限は12年を超えることができない。

第5章 入学

(入学の時期)

第11条 入学の時期は学年の始めとする。

ただし、再入学については、学期の始めとすることができる。

(入学の資格)

第12条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 高等学校卒業生

(2) 中等教育学校卒業生

(3) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む。）

(4) 高等学校に文部科学大臣の定める年数以上在学した者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。）であって、本学の定める分野において特に優れた資質を有すると認められたもの

(5) 大学への入学に関し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者として、学校教育法施行規則第150条に規定された者

(入学の出願)

第13条 入学を志願する者は、入学願書に所定の入学検定料及び別に定める書類を添えて出願しなければならない。

(入学者の選考)

第14条 前条の入学志願者に対しては、別に定めるところにより選考を行い、教授会の議を経て学長が合格者を決定する。

(入学手続及び入学許可)

第15条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに、保証書その他本学所定の書類を提出するとともに、所定の学費を納入しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

(保証人)

第16条 保証人は親権者（親権者のない者はこれに代わる者）とする。保証人は、当該学生在学中、本人にかかわる一切の件につき責任を負う。

2 保証人が転籍、転居したときは、直ちにその旨を届け出なければならない。保証人が死亡した時又はその資格を失った時は、新たに保証人を定めて保証書を提出しなければならない。

第6章 編入学・転入学・再入学及び転学部転学科等

(編入学)

第17条 編入学志願者に対しては、選考の上、教授会の議を経て学長が第3年次に編入学を許可する。

2 前項の規定により入学することができるときは、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 大学に2年以上在学し、所定の単位を修得した者

- (2) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者
- (3) 専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者（ただし、学校教育法第90条第1項に規定する大学入学資格を有する者に限る。）
- (4) 高等学校の専攻科の課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者（ただし、学校教育法第90条第1項に規定する大学入学資格を有する者に限る。）
- 3 第1項により編入学した場合の単位の認定については、既修単位の一部又は全部について行う。
（転入学）

第17条の2 転入学志願者に対しては、選考の上、教授会の議を経て学長が第2年次に転入学を許可することがある。

- 2 前項の規定により入学することができる者は、次の各号の一に該当する者とする。
 - (1) 大学又は短期大学に1年以上在学し、所定の単位を修得した者
 - (2) 専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者（ただし、学校教育法第90条第1項に規定する大学入学資格を有する者に限る。）
- 3 第1項により転入学した場合の単位の認定については、既修単位の一部又は全部について行う。
（再入学）

第18条 再入学を志願する者に対しては、選考の上、教授会の議を経て学長が相当年次に入学を許可することがある。ただし、通算して所定の在学年限を超える場合は、志願することができない。

- 2 前項の規定により入学を許可された者の既に履修した授業科目及び単位数の取扱い等については、教授会の議を経て学長が決定する。
（編入学・転入学及び再入学の入学手続等）

第19条 編入学・転入学及び再入学の入学手続等については、第13条、第15条第1項及び第16条を適用する。

（転学部・転学科等）

第20条 所属する学部学科等から他の学部学科等に転じることを志願する者に対しては、選考の上、教授会の議を経て学長がこれを許可することがある。

- 2 転学部・転学科等に関する必要事項は、別に定める。

第7章 休学・復学・退学・除籍及び留学

（休学）

第21条 疾病その他やむを得ない事由により、休学しようとする者は、保証人連署の上、所定の期日までに学長に願い出て、その許可を得なければならない。

- 2 疾病のため修学することが適当でないと認められる者については、学長は休学を命ずることができる。

（休学期間及び復学）

第22条 休学期間は半年又は1年とする。

- 2 休学期間は、通算して2年を超えることができない。
- 3 休学期間は、第10条の在学年限に算入しない。
- 4 休学期間中にその事由が消滅した場合は、保証人連署の上、学長に願い出て、その許可を得て学期始めから復学することができる。

（退学）

第23条 退学しようとする者は、保証人連署の上、学長に願い出て、その許可を受けなければならない。

（除籍）

第24条 次の各号の一に該当する者は、教授会の議を経て学長が除籍する。

- (1) 第10条に定める在学年限を超えた者
- (2) 学費の納入を怠り、督促してもなお納入しない者
- (3) 第22条第2項に定める休学期間を超えてなお復学できない者

（留学）

第25条 本学が定める他の大学又は短期大学で学修することを志願する者は、学長の許可を得て留学することができる。

- 2 前項の許可を得て留学した期間は、第9条及び第10条の定める修業年限及び在学年限に含めるこ

とができる。

留学に関する取扱いは、別に定める。

第8章 教育課程及び履修方法等

(授業科目)

第26条 各学部教育課程は、〔別表1〕のとおりとする。

- 2 授業科目は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。
- 3 本学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。
- 4 本学は、第2項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

(単位計算方法)

第27条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次の基準により計算するものとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
 - (2) 実験、実習、実技については、30時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
 - (3) 第1号に規定する授業の方法と前号に規定する授業の方法を併用する場合の単位数の基準は、前2号に規定する基準を考慮して本学が定める。
- 2 前項の規定にかかわらず、卒業研究等の学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる授業科目については、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

(学習の評価)

第28条 学習評価は、原則として各科目につき試験により行う。

- 2 学習の評価は100点法とし、60点以上を合格とする。また、秀、優、良、可等の評語をもって表わす。

(成績評価基準等の明示等)

第28条の2 本学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに一年間の授業の計画をあらかじめ明示する。

- 2 本学は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行う。

(単位の授与)

第29条 授業科目を履修し、合格した者には、所定の単位を与える。

- 2 第26条第3項の授業の方法により修得することができる単位は60単位を超えないものとする。

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修)

第30条 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとして認定することができる。

- 2 前項の規定は、学生が外国の大学又は短期大学に留学した場合に準用する。
- 3 前2項の実施に関して必要な事項については、別に定める。

第30条の2 外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し修得した単位及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修し修得した単位を、第30条第1項及び第2項により認定した単位と合わせて60単位を超えない範囲で認定することができる。

- 2 前項の実施に関して必要な事項については、別に定める。

(大学以外の教育施設等における学修)

第31条 本学は、教育上有益と認めるときは、他の短期大学又は高等専門学校の専攻科における学

修、その他文部科学大臣が別に定める学修を本学における授業科目の履修とみなし、第30条第1項及び第2項並びに前条第1項により本学において修得したものとして認定する単位数と合わせて60単位を超えない範囲で、単位を認定することができる。

2 前項の実施に関して必要な事項については、別に定める。

(入学前の既修得単位等の認定)

第32条 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が本学入学以前に大学又は短期大学において修得した単位、及び短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修、その他文部科学大臣が別に定める学修については、本学における授業科目の履修により修得したものとして認定することができる。

2 前項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学・転入学の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第30条第1項及び第2項、第30条の2第1項並びに前条第1項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

3 前2項の規定は、学生が外国の大学又は短期大学で修得した単位の場合にも準用する。

4 前3項の実施に関して必要な事項については、別に定める。

(教育職員免許状の授与の所要資格取得)

第33条 教員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める科目、及び〔別表2〕に定める科目の単位を修得しなければならない。

2 本学の学部・学科において、当該所要資格を取得できる教員の免許状の種類は次の表のとおりとする。

学部	学科等	教員の免許状の種類
学芸学部	音楽学科 演奏専攻	中学校教諭一種免許状（音楽） 高等学校教諭一種免許状（音楽）
	音楽学科 音楽文化専攻	中学校教諭一種免許状（音楽） 高等学校教諭一種免許状（音楽）
	メディア創造学科	高等学校教諭一種免許状（情報）
現代社会学部	社会システム学科	中学校教諭一種免許状（社会） 高等学校教諭一種免許状（地理歴史） 高等学校教諭一種免許状（公民）
	現代こども学科	幼稚園教諭一種免許状 小学校教諭一種免許状
看護学部	看護学科	養護教諭一種免許状
表象文化学部	英語英文学科	中学校教諭一種免許状（英語） 高等学校教諭一種免許状（英語）
	日本語日本文学科	中学校教諭一種免許状（国語） 高等学校教諭一種免許状（国語）
生活科学部	人間生活学科	中学校教諭一種免許状（家庭） 高等学校教諭一種免許状（家庭）
	食物栄養科学科 食物科学専攻	中学校教諭一種免許状（家庭） 高等学校教諭一種免許状（家庭）
	食物栄養科学科 管理栄養士専攻	栄養教諭一種免許状

(学校図書館司書教諭の資格取得)

第33条の2 司書教諭の資格を取得しようとする者は、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める小学校、中学校若しくは高等学校の教諭の教育職員免許状授与の所要資格を取得するために必要な単位を修得するとともに、〔別表2〕に定める科目の単位を修得しなければならない。

(司書の所要資格取得)

第33条の3 司書の所要資格を取得しようとする者は、図書館法及び図書館法施行規則に定める所定

の単位を修得しなければならない。

（博物館学芸員の資格取得）

第33条の4 博物館学芸員の資格を取得しようとする者は、博物館法及び博物館法施行規則に定める所定の単位を修得しなければならない。

（栄養士免許状の授与の所要資格及び管理栄養士国家試験受験資格の取得）

第34条 栄養士の免許授与の所要資格を取得しようとする者は、第36条の規定によるほか、栄養士法及び栄養士法施行規則に定める科目の単位を修得しなければならない。

2 管理栄養士国家試験受験資格を取得しようとする者は、第36条の規定によるほか、〔別表1〕に定める科目の単位を修得しなければならない。

（食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格取得）

第35条 食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格を取得しようとする者は、第36条の規定によるほか、〔別表1〕に定める科目の単位を修得しなければならない。

（保育士の資格取得）

第35条の2 保育士の資格を取得しようとする者は、第36条の規定によるほか、〔別表1〕に定める科目の単位を修得しなければならない。なお、保育士養成課程の履修については別に定める。

（看護師国家試験受験資格取得）

第35条の3 看護師国家試験受験資格を取得しようとする者は、第36条の規定によるほか、〔別表1〕に定める科目の単位を修得しなければならない。

（保健師国家試験受験資格取得）

第35条の4 保健師国家試験受験資格を取得しようとする者は、第36条の規定によるほか、〔別表2〕に定める科目の単位を修得しなければならない。なお、保健師国家試験受験資格を取得するために必要な事項は、別に定める。

第9章 卒業及び学位

（卒業の要件）

第36条 本学学芸学部、現代社会学部、看護学部、表象文化学部、生活科学部を卒業するためには、4年以上在学し、〔別表1〕の教育課程及び履修方法に従って授業科目を履修し、所定の単位を修得しなければならない。

2 本学薬学部を卒業するためには6年以上在学し、〔別表1〕の教育課程及び履修方法に従って授業科目を履修し、所定の単位を修得しなければならない。なお、進級制限に関する基準は別に定める。

3 他学部、他学科、他専攻科目及び他の大学又は短期大学との単位互換により修得した科目の単位は、卒業必要単位に算入することができる。必要な事項については、別に定める。

（学位の授与）

第37条 本学を卒業した者には、次の区分により、学士の学位を授与する。

学部	学科等	学位
学芸学部	音楽学科演奏専攻	学士（音楽）
	音楽学科音楽文化専攻	学士（音楽）
	メディア創造学科	学士（メディア創造）
	国際教養学科	学士（国際教養学）
現代社会学部	社会システム学科	学士（社会システム）
	現代こども学科	学士（現代社会）
薬学部	医療薬学科	学士（薬学）
看護学部	看護学科	学士（看護学）
表象文化学部	英語英文学科	学士（文学）
	日本語日本文学科	学士（文学）
生活科学部	人間生活学科	学士（生活科学）
	食物栄養科学科 食物科学専攻	学士（生活科学）
	食物栄養科学科 管理栄養士専攻	学士（生活科学）

第10章 教職員組織

(教職員組織)

第38条 本学に学長を置く。

2 学長は校務をつかさどり、所属教職員を統督する。

第38条の2 本学に学部長を置く。

2 学部長は学部に関する校務をつかさどる。

第38条の3 本学に教授、准教授、講師、助教及び助手を置く。

第38条の4 本学にその事務を遂行するため職員を置く。

第38条の5 本学は、教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、教職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修等を実施する。

(教員の職務)

第39条 教授、准教授、講師及び助教は、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

2 教授、准教授、専任講師、助教は、授業科目の選択等に関し、アドバイザーとして学生の指導に当たるほか、課外活動の各分野に対し指導助言の責任を分担する。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第39条の2 本学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施する。

第11章 教授会及び評議会

(教授会)

第40条 本学に教授会を置く。

2 教授会は教授をもって構成する。ただし、必要に応じて准教授、専任講師及び助教を加えることができる。

3 教授会は次に定める事項について審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学及び卒業に関する事項

(2) 学位の授与に関する事項

(3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項

4 教授会は前項に規定するもののほか、学長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長の求めに応じ、意見を述べることができる。

(評議会)

第41条 本学に評議会を置く。

2 評議会は次の各号に掲げる評議員をもって構成する。

(1) 学長

(2) 部長、研究科長、学科主任

(3) 教授会から選出された教授6名(各学部1名)

3 評議会は学長の諮問に応じて次の事項を審議する。

(1) 重要な制度及び規則の制定改廃に関する事項

(2) 予算に関する事項

(3) 重要な施設の設置廃止に関する事項

(4) 人事に関する事項

(5) 各学部その他の連絡調整に関する事項

(6) その他、大学の運営に関する重要事項

第12章 名誉教授

(名誉教授)

第42条 本学において多年勤務し、教育上又は学術上功績のあった者には名誉教授の称号を授与することができる。

名誉教授に関する規程は、別に定める。

第13章 賞罰

(表彰)

第43条 本学の学生として表彰に価する行為があった者は、教授会の議を経て、学長が表彰することができる。

(懲戒)

第44条 本学の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者は、教授会の議を経て学長が懲戒する。

2 前項の懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2) 学力が極めて劣等で成業の見込みがないと認められる者

(3) 正当な理由がなくて出席が常でない者

(4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第14章 科目等履修生・聴講生及び外国人留学生

(科目等履修生)

第45条 本学学生以外の者で、1又は複数の授業科目を履修することを志願する者に対しては、本学の教育に支障のない限りにおいて選考の上、科目開設学部の学部長、教務部長の承認を経て科目等履修生として学長が履修を許可することができる。

2 科目等履修生には、合格した科目については当該科目の単位を授与する。

3 科目等履修生に関し必要な事項は、別に定める。

(聴講生)

第46条 本学学生以外の者で、1又は複数の授業科目を聴講することを志願する者に対しては、本学の教育に支障のない限りにおいて選考の上、科目開設学部の学部長、教務部長の承認を経て学長が聴講を許可することができる。

2 聴講生に関し必要な事項は、別に定める。

(外国人留学生)

第47条 外国人で大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者に対しては、選考の上、教授会の議を経て学長が外国人留学生として入学を許可することがある。

2 外国人留学生に関し必要な事項は、別に定める。

第15章 学費及び入学検定料

(学費の納入)

第48条 学生は、〔別表3〕に定める学費を指定期日までに納入しなければならない。ただし、別に定めるところにより分納することができる。

2 休学期間中は、休学在籍料のみを納入するものとする。

3 既に納入した学費は返還しない。ただし、指定期日までに入学手続の取消を願い出た者については、入学金を除く学費を返還することがある。

(学費の延納)

第49条 正当な事由により、学費を延納しなければならなくなった場合は、直ちにその旨を届け出て許可を得なければならない。

(学費の完納)

第50条 所定の学費を完納しなければ、卒業することができない。

(退学・停学の場合の学費)

第51条 学期の途中で退学する者の当該学期分の学費は全額徴収する。

2 停学期間中の学費は全額徴収する。

(入学検定料)

第52条 本学の入学検定料は、〔別表4〕のとおりとする。

第16章 附属施設

(研究教育施設)

第53条 本学は、図書館等必要な研究教育施設を置く。

2 各研究教育施設の規則は、別に定める。

(学寮)

第54条 本学に学寮を置く。

2 学寮に関する規則は、別に定める。

(厚生施設)

第55条 本学は、保健室等必要な厚生施設を置く。

第17章 公開講座

(公開講座)

第56条 学生及び社会人の教養を高め、文化の向上に資するため、本学に公開講座を開設することができる。

附 則

本学則は2002（平成14）年4月1日からこれを適用する。

本学学芸学部英文学科は、改正後の学則第4条の規定にかかわらず1994（平成6）年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

本学家政学部家政学科、食物学科食物学専攻及び食物学科管理栄養士専攻は、改正後の学則第4条の規定にかかわらず1995（平成7）年3月31日に当該学部等に在学する者が当該学部等に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

2000（平成12）年3月31日において、本学に在籍する者の学費の取扱いに関しては、改正後の学則第48条第1項の規定にかかわらず、従前の学則によるものとする。

2000（平成12）年3月31日において、本学に在籍する者の教育課程の取扱いに関しては、改正後の学則第26条第1項のほか、〔別表1—2〕に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

2000（平成12）年3月31日において、本学に在籍する者の教員の免許状授与の所要資格取得の取扱いに関しては、改正後の学則第33条第1項のほか、〔別表1—2〕に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

第4条の規定にかかわらず、1992（平成4）年度から1999（平成11）年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学部	学科等	入学定員	
		（1992（平成4）年度～1997（平成9）年度）	（1998（平成10）年度～1999（平成11）年度）
学芸学部	英語英文学科	300名	300名
	日本語日本文学科	150	150
	音楽学科演奏専攻	85	85
	音楽学科音楽文化専攻	45	45
生活科学部	人間生活学科	100	100
	食物栄養科学科食物科学専攻	90	70
	食物栄養科学科管理栄養士専攻	60	80
計		830	830

第4条の規定にかかわらず、2000（平成12）年度から2004（平成16）年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学部	学科等	入学定員				
		2000 （平成 12）年 度	2001 （平成 13）年 度	2002 （平成 14）年 度	2003 （平成 15）年 度	2004 （平成 16）年 度
学芸学部	英語英文学科	名 295	名 290	名 210	名 205	名 200
	日本語日本文学科	187	184	136	133	130
	音楽学科演奏専攻	89	85	82	78	75
	音楽学科音楽文化専攻	46	45	43	42	40
現代社会学部	社会システム学科	400	400	400	400	400
生活科学部	人間生活学科	96	92	88	84	80

	食物栄養科学科食物科学専攻	67	64	61	58	55
	食物栄養科学科管理栄養士専攻	80	80	80	80	80

第7条第1項の規定にかかわらず、2002（平成14）年度については、次のとおりとする。

春学期 4月1日から9月29日まで

秋学期 9月30日から翌年3月31日まで

附 則

本学則は2003（平成15）年4月1日からこれを適用する。

第7条第1項の規定にかかわらず、2003（平成15）年度については、次のとおりとする。

春学期 4月1日から9月28日まで

秋学期 9月29日から翌年3月31日まで

〔別表1〕の規定にかかわらず、生活科学部食物栄養科学科管理栄養士専攻に2001（平成13）年度以前に入学した学生の教育課程及び履修方法は、従前の学則によるものとする。

2003（平成15）年3月31日において、本学に在籍する者の学費の取扱いに関しては、改正後の学則第48条第1項の規定にかかわらず、従前の学則によるものとする。ただし、休学在籍料については、2003（平成15）年度以降在学の学生に適用する。

附 則

本学則は2004（平成16）年4月1日からこれを適用する。

2004（平成16）年3月31日において、本学に在籍する者の学習の評価に関しては、改正後の学則第28条第2項の規定にかかわらず、従前の学則によるものとする。

附 則

本学則は2005（平成17）年4月1日からこれを適用する。

2005（平成17）年3月31日において、本学に在籍する者の教育課程の取扱いに関しては、改正後の学則第26条第1項のほか従前の学則によるものとする。

2005（平成17）年3月31日において、本学に在籍する者の教員の免許状授与の所要資格取得の取扱いに関しては、改正後の学則第33条第1項のほか、従前の学則によるものとする。

2005（平成17）年3月31日において、本学に在籍する者の学費の取扱いに関しては、改正後の学則第48条第1項の規定にかかわらず、従前の学則によるものとする。

附 則

本学則は2006（平成18）年4月1日からこれを適用する。

2006（平成18）年3月31日において、本学に在籍する者の教育課程の取扱いに関しては、改正後の学則第26条第1項のほか従前の学則によるものとする。

2006（平成18）年3月31日において、本学に在籍する者の学費の取扱いに関しては、改正後の学則第48条第1項の規定にかかわらず、従前の学則によるものとする。

附 則

本学則は2007（平成19）年4月1日からこれを適用する。

2007（平成19）年3月31日において、本学に在籍する者の教育課程の取扱いに関しては、改正後の学則第26条第1項のほか従前の学則によるものとする。

2007（平成19）年3月31日において、本学に在籍する者の学費の取扱いに関しては、改正後の学則第48条第1項の規定にかかわらず、従前の学則によるものとする。

附 則

本学則は2008（平成20）年4月1日からこれを適用する。

2008（平成20）年3月31日において、本学に在籍する者の教育課程の取扱いに関しては、改正後の学則第26条第1項のほか従前の学則によるものとする。

附 則

本学則は2009（平成21）年4月1日からこれを適用する。

学則第26条第1項及び第33条第1項に定める教育課程の取扱いについては、2009（平成21）年度入学生から適用し、2008（平成20）年度以前の入学生は、別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

附 則

本学則は2010（平成22）年4月1日からこれを適用する。

学則第26条第1項及び第33条第1項に定める教育課程の取扱いについては、2010（平成22）年度入学生から適用し、2009（平成21）年度以前の入学生は、別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

附 則

本学則は2011（平成23）年4月1日からこれを適用する。

学則第26条第1項及び第33条第1項に定める教育課程の取扱いについては、2011（平成23）年度入学生から適用し、2010（平成22）年度以前の入学生は、別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

附 則

本学則は2012（平成24）年4月1日からこれを適用する。

学則第26条第1項及び第33条第1項に定める教育課程の取扱いについては、2012（平成24）年度入学生から適用し、2011（平成23）年度以前の入学生は、別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

附 則

本学則は2013（平成25）年4月1日からこれを適用する。

学則第26条第1項及び第33条第1項に定める教育課程の取扱いについては、2013（平成25）年度入学生から適用し、2012（平成24）年度以前の入学生は、別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

附 則

本学則は2014（平成26）年4月1日からこれを適用する。

学則第26条第1項及び第33条第1項に定める教育課程の取扱いについては、2014（平成26）年度入学生から適用し、2013（平成25）年度以前の入学生は、別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

附 則

本学則は2015（平成27）年4月1日からこれを適用する。

学則第26条第1項及び第33条第1項に定める教育課程の取扱いについては、2015（平成27）年度入学生から適用する。

2015（平成27）年3月31日において、本学に在籍する者の教育課程の取扱いに関しては、改正後の学則第26条第1項のほか、〔別表1—2〕に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

2015（平成27）年3月31日において、本学に在籍する者の教員の免許状授与の所要資格取得の取扱いに関しては、改正後の学則第33条第1項のほか、〔別表1—2〕に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

附 則

本学則は2016（平成28）年4月1日からこれを適用する。

学則第26条第1項及び第33条第1項に定める教育課程の取扱いについては、2016（平成28）年度入学生から適用する。

2015（平成27）年3月31日において、本学に在籍する者の教育課程の取扱いに関しては、改正後の学則第26条第1項のほか、〔別表1—2〕に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

2015（平成27）年3月31日において、本学に在籍する者の教員の免許状授与の所要資格取得の取扱いに関しては、改正後の学則第33条第1項のほか、〔別表1—2〕に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

附 則

本学則は2017（平成29）年4月1日からこれを適用する。

学則第26条第1項及び第33条第1項に定める教育課程の取扱いについては、2017（平成29）年度入学生から適用し、2016（平成28）年度以前の入学生は、別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

2015（平成27）年3月31日において、本学に在籍する者の教育課程の取扱いに関しては、改正後の学則第26条第1項のほか、〔別表1—2〕に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

2015（平成27）年3月31日において、本学に在籍する者の教員の免許状授与の所要資格取得の取扱いに関しては、改正後の学則第33条第1項のほか、〔別表1—2〕に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

附 則

本学則は2018（平成30）年4月1日からこれを適用する。

学則第26条第1項及び第33条第1項に定める教育課程の取扱いについては、2018（平成30）年度入学生から適用し、2017（平成29）年度以前の入学生は、別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

第4条第2項、第33条第2項及び第37条は、学芸学部情報メディア学科の学芸学部メディア創造学科への名称変更により改正・施行する。

2015（平成27）年3月31日において、本学に在籍する者の教育課程の取扱いに関しては、改正後の学則第26条第1項のほか、〔別表1—2〕に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

2015（平成27）年3月31日において、本学に在籍する者の教員の免許状授与の所要資格取得の取扱いに関しては、改正後の学則第33条第1項のほか、〔別表1—2〕に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

1949（昭和24）年2月21日 文部省認可

〔別表1〕

人材養成目的、教育課程及び履修方法

科目名	履修単位
〔共通学芸科目〕	
○ 必修科目	
（現代こども学科）	
教育の原理	2
発達と学習の心理学	2
教育の制度と経営	2
○ 選択科目	
（音楽学科、メディア創造学科、国際教養学科、社会システム学科、現代こども学科、医療薬学科、看護学科、英語英文学科、日本語日本文学科、人間生活学科、食物栄養科学科）	
哲学 A	2
哲学 B	2
西洋の思想 A	2
西洋の思想 B	2
日本の思想 A	2
日本の思想 B	2
宇宙の科学	2
地球の科学	2
生命の科学	2
自然人類学	2
物質の科学	2
生活環境の科学	2
自然科学史	2
科学技術と人間	2
心理学 A	2
心理学 B	2
人格心理学	2
臨床心理学	2
薬の発明・発見史 I	2

薬の発明・発見史 II	2
女性のための医学	2
日本国憲法	2
国際社会と法	2
法と市民生活	2
国際関係論 A	2
国際関係論 B	2
国際社会と経済 A	2
国際社会と経済 B	2
日本経済のしくみ	2
人間と社会 A	2
人間と社会 B	2
異文化間コミュニケーション論	2
マスコミュニケーション論 A	2
マスコミュニケーション論 B	2
情報と社会	2
社会保障と福祉	2
介護概説	2
インターンシップ	2
インターンシップ I	2
女性と社会	2
日本女性史	2
外国文学と女性 A	2
外国文学と女性 B	2
日本文学と女性	2
ヨーロッパの歴史と文化 A	2
ヨーロッパの歴史と文化 B	2
日本の歴史と文化 A	2
日本の歴史と文化 B	2
日本文化論	2
文化交流史	2
文化人類学 A	2
文化人類学 B	2
アメリカ地域研究 A	2
アメリカ地域研究 B	2
アジア地域研究 A	2
アジア地域研究 B	2
日本古典芸能 A	2
日本古典芸能 B	2
美術史	2
音楽と諸芸術	2
音楽と社会	2
現代の音楽	2
映像文化論	2
京都の文化 A	2
京都の文化 B	2
京都の文化 C	2
京都の文化 D	2
京都の文化に触れる A	2
京都の文化に触れる B	2

京都の文化に触れる C	2
京都の文化に触れる D	2
京都の文化に触れる E	2
京都の歴史 A	2
京都の歴史 B	2
海外事情 (アメリカ)	4
海外事情 (イギリス)	4
海外事情 (ニュージーランド)	4
海外事情 (中国)	4
海外事情 (カナダ)	4
Japan Studies A	2
Japan Studies B	2
Japan Studies C	2
Japan Studies D	2
Japan Studies E	2
テーマ別講義	2
日本語教育能力検定	2
中国文化研究 A	2
中国文化研究 B	2
寄付講座	2
大学生活とキャリアデザイン I	2
大学生活とキャリアデザイン II	2
大学生活とキャリアデザイン III	2
キャリアのための自己表現演習	1
(音楽学科、メディア創造学科、国際教養学科、社会システム学科、医療薬学科、看護学科、英語英文学科、日本語日本文学科、人間生活学科、食物栄養科学科)	
教育の原理	2
教育原理・学校教育論	2
発達と学習の心理学	2
教育の制度と経営	2
(現代こども学科)	
保育原理	2
教職実践演習 (幼・小)	2
[キリスト教・同志社関係科目]	
○ 必修科目	
聖書 A	2
聖書 B	2
○ 選択科目	
キリスト教の歴史 A	2
キリスト教の歴史 B	2
キリスト教の歴史 C	2
キリスト教文化論 A	2
キリスト教文化論 B	2
キリスト教文化論 C	2
キリスト教世界の探求 A	2
キリスト教世界の探求 B	2
キリスト教世界の探求 C	2
近代日本と同志社 A	2
近代日本と同志社 B	2
近代日本と同志社 C	2

〔外国語科目〕

○ 必修科目

(音楽学科、メディア創造学科、人間生活学科、食物栄養科学科、日本語日本文学科)

英語講読	I A	1
英語講読	I B	1
英語講読	II A	1
英語講読	II B	1
英語コミュニケーション	I A	1
英語コミュニケーション	I B	1
英語コミュニケーション	II A	1
英語コミュニケーション	II B	1

(社会システム学科、現代こども学科)

英語講読	I A	1
英語講読	I B	1
英語コミュニケーション	I A	1
英語コミュニケーション	I B	1

(医療薬学科)

英語講読	I A	1
英語講読	I B	1
英語コミュニケーション	I A	1
英語コミュニケーション	I B	1
英語コミュニケーション	II A	1
英語コミュニケーション	II B	1
薬学英语	A	1

(看護学科)

英語講読	I A	1
英語講読	I B	1
英語コミュニケーション	I A	1
英語コミュニケーション	I B	1
英語コミュニケーション	II A	1
英語コミュニケーション	II B	1

○ 選択科目

初級フランス語基礎	I	1
初級フランス語基礎	II	1
初級フランス語演習	I	1
初級フランス語演習	II	1
初級ドイツ語基礎	I	1
初級ドイツ語基礎	II	1
初級ドイツ語演習	I	1
初級ドイツ語演習	II	1
初級中国語基礎		2
初級中国語演習		2
初級イタリア語基礎	I	1
初級イタリア語基礎	II	1
初級イタリア語演習	I	1
初級イタリア語演習	II	1
初級スペイン語基礎	I	1
初級スペイン語基礎	II	1
初級スペイン語演習	I	1

初級スペイン語演習	Ⅱ	1
初級ハングル基礎	Ⅰ	1
初級ハングル基礎	Ⅱ	1
初級ハングル演習	Ⅰ	1
初級ハングル演習	Ⅱ	1
中級フランス語	Ⅰ	1
中級フランス語	Ⅱ	1
上級フランス語	Ⅰ	1
上級フランス語	Ⅱ	1
ラピートフランス語	Ⅰ	1
ラピートフランス語	Ⅱ	1
ラピートフランス語	Ⅲ	1
ラピートフランス語	Ⅳ	1
中級ドイツ語	Ⅰ	1
中級ドイツ語	Ⅱ	1
上級ドイツ語	Ⅰ	1
上級ドイツ語	Ⅱ	1
ラピートドイツ語	Ⅰ	1
ラピートドイツ語	Ⅱ	1
ラピートドイツ語	Ⅲ	1
ラピートドイツ語	Ⅳ	1
中級中国語	Ⅰ	1
中級中国語	Ⅱ	1
上級中国語	Ⅰ	1
上級中国語	Ⅱ	1
ラピート中国語	Ⅰ	1
ラピート中国語	Ⅱ	1
ラピート中国語	Ⅲ	1
ラピート中国語	Ⅳ	1
中級イタリア語	Ⅰ	1
中級イタリア語	Ⅱ	1
中級スペイン語	Ⅰ	1
中級スペイン語	Ⅱ	1
中級ハングル	Ⅰ	1
中級ハングル	Ⅱ	1
総合日本語・日本事情	Ⅰ	2
総合日本語・日本事情	Ⅱ	2
薬学英语	B	1
医療薬学海外事情		1
Study Abroad : English	Ⅰ	2
Study Abroad : English	Ⅱ	2
Study Abroad : English	Ⅲ	2
Study Abroad : English	Ⅳ	2
Study Abroad : English	V	2
Study Abroad : English	Ⅵ	2
Study Abroad : English	Ⅶ	2
TOEFL	Ⅰ	2
TOEFL	Ⅱ	2
TOEFL	Ⅲ	2
TOEIC	Ⅰ	2

TOEIC II	2
TOEIC III	2
英語検定 I	2
英語検定 II	4
IELTS I	2
IELTS II	2
IELTS III	2
ドイツ語学修 I	2
ドイツ語学修 II	2
ドイツ語学修 III	2
フランス語学修 I	2
フランス語学修 II	2
フランス語学修 III	2
中国語学修 I	2
中国語学修 II	2
中国語学修 III	2
ハングル学修 I	2
ハングル学修 II	2
ハングル学修 III	2
イタリア語学修 I	2
イタリア語学修 II	2
イタリア語学修 III	2
スペイン語学修 I	2
スペイン語学修 II	2
スペイン語学修 III	2
〔スポーツ・健康科目〕	
○ 選択科目	
体育実技 A	1
体育実技 B	1
スポーツ実習 A	1
スポーツ実習 B	1
からだの科学	2
ウェルネス健康論	2
食物と健康	2
スポーツ文化論	2

学芸学部

人材養成目的

学芸学部は、建学の理念を踏まえ、幅広い分野の科目を関連づけて学ぶことにより、豊かな教養と物事を多角的に理解し、総合的に考える能力を培う。音楽、メディア創造、国際教養の各分野で専門知識・技術を深く学ぶことをとおして、新たな文化を創造・発信・表現する力を身に付け、更に教室学習だけに留まらない多様な学習機会を提供することで、主体的に社会とかかわり、さまざまな問題を創造的に解決できる実践力と精神力を兼ね備えた人材を養成することを目的とする。

学芸学部 音楽学科

人材養成目的

音楽学科は、西洋音楽を基軸に、西洋の音楽史や和声理論を修得し、民族音楽、日本音楽、古楽演習など多様な領域の学びをとおして知識の幅を広げ、音楽の統合的理解を図り、西洋音楽に偏重することのない芸術価値観を養うことをとおして、専門領域の狭隘な枠を超えた真の教養人を養成することを目的とする。

演奏専攻では、個人レッスン形式の授業を中心として演奏技術の向上を目指すとともに、オペラ、オーケストラ、アンサンブルの機会をとおして、協働して芸術を創り上げ

る感性を培う。

音楽文化専攻では、音楽を創作すること、あるいは美学、社会学、心理学などの学問体系から音楽の意味や価値を追及することをおして、人間の文化に組み込まれた音楽文化について専門的に研究する。

学芸学部 音楽学科 演奏専攻

	科目名	履修単位
〔基礎教育科目〕		
○ 必修科目		
和声法 I		1
和声法 II		1
和声法 III		1
和声法 IV		1
ソルフェージュ I		1
ソルフェージュ II		1
ソルフェージュ III		1
ソルフェージュ IV		1
アナリーゼ I		2
アナリーゼ II		2
○ 選択科目		
オルガン奏法研究		2
チェンバロ奏法研究		2
楽典		2
オーケストレーション I		1
オーケストレーション II		1
和声法 V		1
和声法 VI		1
ソルフェージュ V		1
ソルフェージュ VI		1
対位法 I		1
対位法 II		1
作曲法（編曲法を含む）		1
舞台表現基礎 I		2
舞台表現基礎 II		2
ドイツ語声楽曲研究 I		2
ドイツ語声楽曲研究 II		2
フランス語声楽曲研究 I		2
フランス語声楽曲研究 II		2
〔入門・概論科目〕		
○ 必修科目		
音楽通史 A		2
音楽通史 B		2
音楽とキャリアデザイン		2
音楽基礎演習		2
○ 選択科目		
ミュージックセラピー概論		2
通奏低音理論		2
通奏低音奏法研究		2
〔応用・各論科目〕		
○ 必修科目		
合唱 I		1
合唱 II		1
専門実技 I		3
専門実技 II		3
専門実技 III		3
専門実技 IV		3
専門実技 V		3
専門実技 VI		3

専門実技 VII	3
専門実技 VIII	3
○ 選択科目	
ミュージックマネジメント A	2
コンピュータ音楽演習	2
音楽の史学	2
音楽の美学	2
音楽社会学	2
音楽心理学	2
インターンシップ II	2
日本の音楽	2
民族の音楽	2
ミュージックマネジメント B	2
音楽史 (古典派)	2
音楽史 (ロマン派)	2
音楽史 (中世からバロック)	2
音楽史 (近・現代)	2
和声法 VII	1
和声法 VIII	1
対位法 III	1
対位法 IV	1
音楽によるアウトリーチ A	2
音楽によるアウトリーチ B	2
学内演奏 I	1
学内演奏 II	1
学内演奏 III	1
学内演奏 IV	1
演奏専攻特別レッスン I	1
演奏専攻特別レッスン II	1
演奏専攻特別レッスン III	1
ピアノ指導法	2
舞台表現応用 A	2
舞台表現応用 B	2
ピアノ奏法基礎	2
ピアノ奏法研究	2
オルガン・チェンバロ奏法概論	2
20世紀のピアノ音楽	2
チェンバロ実技	1
オルガン実技	1
吹奏楽 I	3
吹奏楽 II	3
吹奏楽 III	3
吹奏楽 IV	3
吹奏楽 V	3
吹奏楽 VI	3
吹奏楽 VII	3
吹奏楽 VIII	3
室内楽 I	1
室内楽 II	1
室内楽 III	1
室内楽 IV	1
室内楽 V	1
室内楽 VI	1
教職ピアノ I	2
教職ピアノ II	2
ポピュラーミュージック A	2
ポピュラーミュージック B	2

映画・舞台音楽	2
ジャズミュージック	2
ロックミュージック	2
第一実技 I 声楽	6
第一実技 II 声楽	6
第一実技 III 声楽	6
第一実技 IV 声楽	6
第一実技 a 声楽	3
第一実技 b 声楽	3
第一実技 a	3
第一実技 b	3
オーケストラ I	3
オーケストラ II	3
オーケストラ III	3
オーケストラ IV	3
オーケストラ V	3
オーケストラ VI	3
オーケストラ VII	3
オーケストラ VIII	3
オペラ I	1
オペラ II	1
オペラ III	2
オペラ IV	2
ギター演習	1
古楽器演習 I	1
古楽器演習 II	1
古楽器演習 III	1
古楽器演習 IV	1
古典舞踏 A	2
指揮法 I	2
指揮法 II	2
合唱 III	1
合唱 IV	1
合唱 V	1
合唱 VI	1
合唱 VII	1
合唱 VIII	1
ピアノ実技 I	1
ピアノ実技 II	1
声楽実技 I	1
声楽実技 II	1
第二実技ピアノ a	1
第二実技ピアノ b	1
第二実技声楽 a	1
第二実技声楽 b	1
和楽器実習	1
古典舞踏 B	2
リトミック A	1
リトミック B	1
〔学部統合科目〕	
○ 選択科目	
学芸学部ジョイントプログラム	2
〔自由選択科目〕	
○ 自由選択科目	
コンピュータ活用	2
履修方法（声楽コース）	

必修科目64単位、選択科目22単位、選択科目の最低履修単位数を超える修得単位数38単位以上、計124単位以上履修しなければならない。

卒業単位一覧

授業区分	必修・選択の区分	
	必修	選択
基礎教育科目	2	2
入門・概論科目	6	
応用・各論科目	44	
学部統合科目		
共通学芸科目		12
キリスト教・同志社関係科目	4	2
外国語科目	8	4
スポーツ・健康科目		2
選択科目の最低履修単位数を超える修得単位数		38
合計	64	60
	124	

履修方法（鍵盤楽器コース・ピアノ）

必修科目54単位、選択科目22単位、選択科目の最低履修単位数を超える修得単位数48単位以上、計124単位以上履修しなければならない。

卒業単位一覧

授業区分	必修・選択の区分	
	必修	選択
基礎教育科目	2	2
入門・概論科目	6	
応用・各論科目	34	
学部統合科目		
共通学芸科目		12
キリスト教・同志社関係科目	4	2
外国語科目	8	4
スポーツ・健康科目		2
選択科目の最低履修単位数を超える修得単位数		48
合計	54	70
	124	

履修方法（鍵盤楽器コース・オルガン）

必修科目58単位、選択科目24単位、選択科目の最低履修単位数を超える修得単位数42単位以上、計124単位以上履修しなければならない。

卒業単位一覧

授業区分	必修・選択の区分	
	必修	選択
基礎教育科目	2	2
入門・概論科目	10	
応用・各論科目	34	2
学部統合科目		
共通学芸科目		12
キリスト教・同志社関係科目	4	2
外国語科目	8	4

スポーツ・健康科目		2
選択科目の最低履修単位数を超える修得単位数		42
合計	58	66
	124	

履修方法（鍵盤楽器コース・チェンバロ）

必修科目58単位、選択科目24単位、選択科目の最低履修単位数を超える修得単位数42単位以上、計124単位以上履修しなければならない。

卒業単位一覧

授業区分	必修・選択の区分	
	必修	選択
基礎教育科目	2	2
入門・概論科目	10	
応用・各論科目	34	2
学部統合科目		
共通学芸科目		12
キリスト教・同志社関係科目	4	2
外国語科目	8	4
スポーツ・健康科目		2
選択科目の最低履修単位数を超える修得単位数		42
合計	58	66
	124	

履修方法（管弦打楽器コース）

必修科目50単位、選択科目46単位、選択科目の最低履修単位数を超える修得単位数28単位以上、計124単位以上履修しなければならない。

卒業単位一覧

授業区分	必修・選択の区分	
	必修	選択
基礎教育科目	2	2
入門・概論科目	6	
応用・各論科目	30	24
学部統合科目		
共通学芸科目		12
キリスト教・同志社関係科目	4	2
外国語科目	8	4
スポーツ・健康科目		2
選択科目の最低履修単位数を超える修得単位数		28
合計	50	74
	124	

学芸学部 音楽学科 音楽文化専攻

科目名	履修単位
〔基礎教育科目〕	
○ 必修科目	
ソルフェージュ I	1
ソルフェージュ II	1
○ 選択科目	
和声法 I	1
和声法 II	1

和声法	Ⅲ	1
和声法	Ⅳ	1
楽典		2
和声法	Ⅴ	1
和声法	Ⅵ	1
オーケストレーション	Ⅰ	1
オーケストレーション	Ⅱ	1
ソルフエージュ	Ⅲ	1
ソルフエージュ	Ⅳ	1
ソルフエージュ	Ⅴ	1
ソルフエージュ	Ⅵ	1
作曲法（編曲法を含む）		1
ミュージックリテラチュア	A	2
ミュージックリテラチュア	B	2
ミュージックリテラチュア	C	2
ミュージックリテラチュア	D	2
対位法	Ⅰ	1
対位法	Ⅱ	1
アナリーゼ	Ⅰ	2
アナリーゼ	Ⅱ	2
〔入門・概論科目〕		
○ 必修科目		
音楽通史	A	2
音楽通史	B	2
音楽とキャリアデザイン		2
音楽文化基礎演習	Ⅰ	2
音楽文化基礎演習	Ⅱ	2
○ 選択科目		
ミュージックセラピー概論		2
アニメ・ゲーム音楽	A	2
アニメ・ゲーム音楽	B	2
通奏低音理論		2
通奏低音奏法研究		2
〔応用・各論科目〕		
○ 必修科目		
声楽実技	Ⅰ	1
声楽実技	Ⅱ	1
ピアノ実技	Ⅰ	1
ピアノ実技	Ⅱ	1
○ 選択科目		
音楽社会学		2
音楽心理学		2
音楽の美学		2
音楽の史学		2
音楽史（古典派）		2
音楽史（ロマン派）		2
音楽史（中世からバロック）		2
音楽史（近・現代）		2
民族の音楽		2
日本の音楽		2
ポピュラーミュージック	A	2
ポピュラーミュージック	B	2
ジャズミュージック		2
ロックミュージック		2
音楽教育史	A	2
音楽教育史	B	2
子どもと音楽	A	2

子どもと音楽 B	2
音楽科教科教育法基礎	2
音楽科教科教育法 A	2
音楽科教科教育法 B	2
中学音楽科教科教育法	2
ミュージックセラピー基礎 I	2
ミュージックセラピー基礎 II	2
ミュージックセラピー各論 A	2
ミュージックセラピー各論 B	2
ミュージックセラピー (グループ体験)	2
ミュージックセラピー技能演習 A	2
ミュージックセラピー技能演習 B	2
ミュージックセラピー技能演習 C	2
特別支援教育	2
医学概論	2
臨床の医学 A	2
臨床の医学 B	2
臨床の心理学 A	2
臨床の心理学 B	2
映画・舞台音楽	2
キーボードハーモニー	2
ミュージックマネージメント A	2
ミュージックマネージメント B	2
ミュージッククリエーション A	2
ミュージッククリエーション B	2
ミュージッククリエーション C	2
ミュージッククリエーション D	2
コンピュータミュージック演習 A	2
コンピュータミュージック演習 B	2
コンピュータミュージック演習 C	2
コンピュータミュージック演習 D	2
コンピュータ音楽演習	2
インターンシップ II	2
和声法 VII	1
和声法 VIII	1
対位法 III	1
対位法 IV	1
音楽によるアウトリーチ A	2
音楽によるアウトリーチ B	2
ピアノ指導法	2
教職ピアノ I	2
教職ピアノ II	2
舞台表現基礎 I	2
舞台表現基礎 II	2
ドイツ語声楽曲研究 I	2
ドイツ語声楽曲研究 II	2
フランス語声楽曲研究 I	2
フランス語声楽曲研究 II	2
声楽実技 III	1
声楽実技 IV	1
声楽実技 V	1
声楽実技 VI	1
声楽実技 VII	1
声楽実技 VIII	1
ピアノ実技 III	1
ピアノ実技 IV	1
ピアノ実技 V	1

ピアノ実技	VI	1
ピアノ実技	VII	1
ピアノ実技	VIII	1
楽器実技	I	1
楽器実技	II	1
楽器実技	III	1
楽器実技	IV	1
楽器実技	V	1
楽器実技	VI	1
合唱	I	1
合唱	II	1
合唱	III	1
合唱	IV	1
合唱	V	1
合唱	VI	1
合唱	VII	1
合唱	VIII	1
リトミック	A	1
リトミック	B	1
和楽器実習		1
古楽器演習	I	1
古楽器演習	II	1
古楽器演習	III	1
古楽器演習	IV	1
古典舞踏	A	2
古典舞踏	B	2
ギター演習		1
指揮法	I	2
指揮法	II	2
合奏	I	1
合奏	II	1
合奏	III	1
合奏	IV	1
合奏	V	1
合奏	VI	1
合奏	VII	1
合奏	VIII	1
ミュージックセラピー実習	I	2
ミュージックセラピー実習	II	2
ミュージックセラピー実習	III	2
〔学部統合科目〕		
○ 選択科目		
学芸学部ジョイントプログラム		2
〔ゼミナール科目〕		
○ 選択科目		
サウンドデザイン研究	I	2
サウンドデザイン研究	II	2
ミュージックスタディーズ研究	I	2
ミュージックスタディーズ研究	II	2
ミュージックセラピー研究	I	2
ミュージックセラピー研究	II	2
ミュージックエデュケーション研究	I	2
ミュージックエデュケーション研究	II	2

履修方法（音楽文化専攻）

必修科目28単位、選択科目44単位、選択科目の最低履修単位数を超える修得単位数52単位以上、計124単位以上履修しなければならない。

卒業単位一覧

授業区分	必修・選択の区分	
	必修	選択
基礎教育科目	2	2
入門・概論科目	8	
応用・各論科目	6	20
学部統合科目		
共通学芸科目		10
キリスト教・同志社関係科目	4	2
外国語科目	8	4
スポーツ・健康科目		2
ゼミナール科目		4
選択科目の最低履修単位数を超える修得単位数		52
合計	28	96
	124	

学芸学部 メディア創造学科

人材養成目的

メディア創造学科は、専門分野における高度な知識や、関連した他の多様な学問・芸術分野を幅広く学ぶことにより、メディア活用の知識と技術、創造的な問題解決能力、メディア技術を用いたユニークな発想力と自己表現力などを修得することで、主体性を持って社会に関わり、修得した知識・技術・能力を社会において駆使できる女性を育てることを目的とする。

科目名	履修単位
〔基礎教育科目〕	
○ 必修科目	
メディア創造基礎演習 A	2
メディア創造基礎演習 B	2
メディア創造基礎演習 C	2
コンピュータ活用基礎	2
○ 選択科目	
キャリアプランニング演習	2
プレゼンテーション技法	2
〔入門・概論科目〕	
○ 必修科目	
メディア創造概論	2
女性の人生設計	2
〔応用・各論科目〕	
○ 必修科目	
(アートとデザイン)	
グラフィック・WEB基礎演習	2
写真・動画基礎演習	2
(マスメディアとカルチャー)	
メディア文化史	2
情報倫理	2
(エンターテインメントとビジネス)	
メディアエンターテインメント論	2
マネジメント研究	2
(メディアとテクノロジー)	
ネットワーク概論	2
ソフトウェア概論	2
○ 選択科目	
(アートとデザイン)	

写真表現論	2
写真表現演習	2
イラスト表現演習	2
アニメーション表現演習	2
ゲームデザイン演習	2
グラフィックデザイン論	2
グラフィックデザイン演習	2
エディトリアル・ブックデザイン演習	2
エクスペリエンスデザイン演習	2
WEBデザイン演習	2
情報デザイン演習	2
3DCG演習	2
3DCGアニメーション演習	2
メディアアート論	2
メディアアート表現演習	2
現代美術演習	2
演劇表現演習	2
パフォーマンス論	2
音楽制作演習	2
サウンドデザイン演習	2
音楽表現論	2
(マスメディアとカルチャー)	
マルチメディア論	2
知覚メディアの心理学	2
アニメーション表現論	2
マンガ文化論 A	2
マンガ文化論 B	2
ゲームデザイン論	2
情報サービス論	2
図書館サービス概論	2
西洋美術表現論	2
現代美術論	2
現代哲学・メディア思想	2
メディア社会学	2
情報サービス演習 A	2
情報サービス演習 B	2
宗教とメディア	2
コーパス演習	2
都市メディア論	2
ソーシャルメディア論	2
メディア論	2
映像表現論	2
ドキュメンタリー制作演習	2
ドラマ制作演習	2
放送番組制作	2
ジャーナリズム論	2
広告プランニング	2
コミュニケーション論	2
デジタルアーカイブス	2
アナウンス技術	2
(エンターテインメントとビジネス)	
プロデュース論 A	2
プロデュース論 B	2
プランニング演習	2
プロジェクトプランニング演習 I	2
プロジェクトプランニング演習 II	2
情報ビジネス起業論	2

エンターテインメント産業論	2
ストラテジー研究 A	2
ストラテジー研究 B	2
I T ビジネス研究	2
調査統計法	2
インターンシップ II	2
グローバルエンターテインメント論	2
ステージビジネス演習	2
音楽エンターテインメント産業論	2
(メディアとテクノロジー)	
情報ネットワーク	2
WE B 技術演習	2
コンピュータ科学	2
テクノロジーと社会	2
情報ネットワーク応用 I	2
情報ネットワーク応用 II	2
プログラミング A I	2
プログラミング A II	2
プログラミング A III	2
プログラミング A IV	2
WE B プログラミング	2
データベース論	2
ヒューマンインタフェース論	2
情報数学	2
プログラミング B I	2
プログラミング B II	2
情報セキュリティ	2
フィジカルコンピューティング	2
(グローバルメディア)	
English Communication in Information and Media A	2
English Communication in Information and Media B	2
Media and Cross-cultural Communication	2
メディア創造系海外事情	2
Writing for the Internet in English A	2
Writing for the Internet in English B	2
Beginner' s Reading	2
Media Culture Reading	2
アジアメディアスタディー	2
欧米メディアスタディー	2
[学部統合科目]	
○ 選択科目	
学芸学部ジョイントプログラム	2
[ゼミナール科目]	
○ 必修科目	
メディア創造演習	2
メディア創造応用演習 I	2
メディア創造応用演習 II	2
卒業演習・制作 I	2
卒業演習・制作 II	2
[図書館司書課程科目]	
○ 自由選択科目	
図書館概論	2
図書館制度・経営論	2
図書館情報技術論	2
図書館情報資源概論	2
情報資源組織論	2
情報資源組織演習	4

図書・図書館史	1
図書館施設論	1
図書館実習	1

履修方法（メディア創造学科）

必修科目50単位、選択科目60単位、選択科目の最低履修単位数を超える修得単位数14単位以上、計124単位以上履修しなければならない。

卒業単位一覧

授業区分	必修・選択の区分	
	必修	選択
基礎教育科目	8	
入門・概論科目	4	
応用・各論科目	16	44
学部統合科目		
共通学芸科目		12
キリスト教・同志社関係科目	4	2
外国語科目	8	
スポーツ・健康科目		2
ゼミナール科目	10	
選択科目の最低履修単位数を超える修得単位数		14
合計	50	74
	124	

学芸学部 国際教養学科

人材養成目的

国際教養学科は、リベラル・アーツ教育を重視し、日本の文化、伝統、歴史に対する理解を深め、英語圏大学への留学をとおして異文化を体験し、他国を理解し、さまざまな国際問題や学問的な内容について対等に議論できるような高度な英語力を身に付け、物事の本質を掴むことができ、国際理解を積極的に推進する態度や信条を持った人材を養成することを目的とする。

科目名

履修単位

〔基礎教育科目〕

○ 必修科目

Academic Speaking I	2
Academic Speaking II	2
Academic Speaking III	2
Academic Writing I	2
Academic Writing II	2
Academic Writing III	2
Intensive Reading I	2
Intensive Reading II	2
Intensive Listening I	2
Intensive Listening II	2
Integrative Skills I	1
Integrative Skills II	1
Pronunciation & Presentation I	1
Pronunciation & Presentation II	1
Extensive Reading	2

○ 選択科目

Consecutive Interpretation／日英逐次通訳入門	2
Simultaneous Interpretation／日英同時通訳入門	2
Reading and Discussion A	2
Reading and Discussion B	2

Reading and Discussion C	2
Reading and Discussion D	2
Reading and Discussion E	2
Discussion and Debate A	2
Discussion and Debate B	2
〔国際教養科目〕	
(日本研究)	
○ 必修科目	
Introduction to Japanese Studies／日本研究入門	2
Contemporary Japanese Society／現代の日本社会	2
○ 選択科目	
Japanese & Comparative Literature／日本文学と外国文学	2
Japanese & Foreign Languages／日本語と外国語	2
Cultural Issues in Japan／日本の文化	2
Political Issues in Japan／日本の政治	2
Social Issues in Japan／日本の社会	2
Japanese Traditional Arts／日本の伝統芸能	2
Minority and Japanese Society／マイノリティと日本社会	2
Inbound Tourism／インバウンド観光論	2
Japanese Film Studies／日本映画研究	2
(地域研究)	
○ 必修科目	
Introduction to British Studies／イギリス研究入門	2
Introduction to North American Studies／北米研究入門	2
○ 選択科目	
Historical View of Britain／イギリス史	2
Historical View of North America／北米史	2
Christianity in the World／キリスト教と世界	2
English and American Literature／英米文学論	2
Multiculturalism in Modern Society／現代社会と多文化主義	2
Asian Culture／アジア文化論	2
Advanced British Studies／イギリス研究	2
Advanced North American Studies／北米研究	2
Comparative Religious Studies／比較宗教論	2
(国際関係学)	
○ 必修科目	
Introduction to Intercultural Communication／異文化間コミュニケーション入門	2
Introduction to International Relations／国際関係論入門	2
○ 選択科目	
Global Education／国際教育論	2
International Relations in East Asia／東アジア国際関係論	2
International Business／国際ビジネス論	2
International Gender Studies／国際ジェンダー論	2
Environmental Issues in Modern Society／現代社会と環境	2
Issues in International Development／国際開発論	2
Tourism Studies／国際観光論	2
International Journalism／国際ジャーナリズム論	2
(言語研究)	
○ 選択科目	
Introduction to Linguistics／言語学概論	2
English Phonetics／英語音声学	2
Sociolinguistics／社会言語学	2
Language Teaching Methodology／言語教育方法論	2
Bilingualism／バイリンガリズム論	2
(留学科目)	
○ 必修科目	

Overseas Study Preparation I / 留学事前指導 I	1
Overseas Study Preparation II / 留学事前指導 II	1
Overseas Study Preparation III / 留学事前指導 III	2
Tutorial I / 実地研究指導 I	2
Tutorial II / 実地研究指導 II	2
○ 選択科目	
Overseas Study Credit / 国際教養留学認定	0 ~ 30
〔キャリアデザイン科目〕	
○ 選択科目	
Global Career Design I / グローバルキャリアデザイン I	2
Global Career Design II / グローバルキャリアデザイン II	2
Global Leadership / グローバルリーダーシップ論	2
Internship II / インターンシップ II	2
〔演習科目〕	
○ 必修科目	
Seminar in International Studies I / 国際教養演習 I	2
Seminar in International Studies II / 国際教養演習 II	2
Seminar in International Studies III / 国際教養演習 III	2
Senior Seminar I / 卒業研究 I	2
Senior Seminar II / 卒業研究 II	4
Senior Seminar III / 卒業研究 III	4
〔学部統合科目〕	
○ 選択科目	
学芸学部ジョイントプログラム	2

履修方法（国際教養学科）

必修科目66単位、選択科目40単位、選択科目の最低履修単位数を超える修得単位数18単位以上、計124単位以上履修しなければならない。

卒業単位一覧

授業区分	必修・選択の区分	
	必修	選択
基礎教育科目	26	2
国際教養科目	20	20
キャリアデザイン科目		2
演習科目	16	
学部統合科目		
共通学芸科目		8
キリスト教・同志社関係科目	4	2
外国語科目		4
スポーツ・健康科目		2
選択科目の最低履修単位数を超える修得単位数		18
合計	66	58
	124	

生活科学部

人材養成目的

生活科学部は、建学の理念を踏まえ、あらゆる生活場面及びその背景を科学的な分析の対象とし、社会・人文科学的及び自然科学的な手法での教育・研究をとおして、人間生活学科と食物栄養科学科それぞれの学科の専門分野に立って社会貢献できる人材を養成することを目的とする。

生活科学部 人間生活学科

人材養成目的

人間生活学科は、人文科学・社会科学・自然科学の方法を用いて家族・家庭生活を中

心とする人間生活を対象とした研究・教育を行い、生活をめぐる自然・社会・人間・文化に対する科学的な認識力と実践能力を有した生活者であるとともに、企業・行政・団体・学校などで生活のスペシャリストとして活躍できる人材を養成する。

科目名	履修単位
〔基礎教育科目〕	
○ 必修科目	
人間生活学基礎演習	2
○ 選択科目	
情報処理 I	2
情報処理 II	2
〔入門・概論科目〕	
○ 選択科目	
(こころ)	
児童学	2
いのちと倫理	2
社会心理学	2
(くらし)	
被服造形論	2
くらしの経済学	2
衣生活学	2
住生活学	2
食生活学	2
(まちづくり)	
まちづくり概論	2
社会福祉学 A	2
〔応用・各論科目〕	
○ 選択科目	
(こころ)	
世界の子どもたち	2
児童文化と伝統	2
児童文化と映像	2
子ども心理学	2
親子関係の心理学	2
現代青年の心理と行動	2
生活健康学	2
介護概論	2
音楽社会心理学	2
死生学	2
家庭看護学	2
保育学実習	1
女性のためのカウンセリング入門	2
ジェンダーの社会心理学	2
情報社会心理学	2
ファミリーセラピー	2
女性のための生涯発達論	2
女性のためのライフプランニング	2
(くらし)	
服飾文化史	2
生活文化史	2
生活経営学	2
住文化史	2
調理科学実習 I	1
調理科学実習 II	1
くらしのための技術と工芸	2
食物栄養学	2
消費者教育論	2
国際生活文化論	2

服飾材料・整理学	2
服飾デザイン論	2
京の伝統染織論	2
インテリアデザイン論	2
生活美術史	2
京と女性の住生活	2
ファッションと社会	2
住居製図基礎実習	1
住居デザイン実習	1
インテリアデザイン実習	1
空間デザイン応用実習	1
被服製作実習基礎	1
被服製作実習（立体構成）	1
被服製作実習（平面構成）	1
被服製作実習応用	1
テキスタイルデザイン実習	1
くらしの色彩学	2
女性のための法律入門	2
居住環境学	2
家庭機械および電気	2
住まいづくりの基礎	2
インターネットコミュニケーション	2
生活科学実験	1
（まちづくり）	
経済と環境	2
環境教育論	2
世界の社会福祉	2
児童福祉論	2
安全・安心のまちづくり	2
景観デザイン学	2
環境生態学	2
ボランティア・NPO活動論	2
ユニバーサルデザイン論	2
空間情報学	2
居住計画学	2
コミュニティ社会心理学	2
地域計画学演習	2
都市空間論	2
地域遺産論	2
（キャリアデザイン）	
キャリア心理学	2
インターンシップ II	2
〔ゼミナール科目〕	
○ 必修科目	
応用演習 I	2
応用演習 II	2
卒業論文	8

履修方法（人間生活学科）

必修科目26単位、選択科目70単位、選択科目の最低履修単位数を超える修得単位数28単位以上、計124単位以上履修しなければならない。

卒業単位一覧表

授業区分	必修・選択の区分	
	必修	選択
基礎教育科目	2	

入門・概論科目		12
応用・各論科目		40
共通学芸科目		10
キリスト教・同志社関係科目	4	2
外国語科目	8	4
スポーツ・健康科目		2
ゼミナール科目	12	
選択科目の最低履修単位数を超える修得単位数		28
合計	26	98
	124	

生活科学部 食物栄養科学科

人材養成目的

食物栄養科学科は、主に自然科学的方法によって食と栄養に関する実践的かつ総合的な教育・研究を行い、幅広い教養と科学的な思考力を身に付けた人材を育成することを目的とする。

食物科学専攻では、個々の食生活からそれを取り巻く食環境までを視野に入れ、食品学・調理学・栄養学の3分野をバランス良く学び、豊富な実験・実習をとおして科学的な思考力と技術力を養い、食品産業を主とした一般企業、学校などで活躍できる「食」のスペシャリストを養成する。

管理栄養士専攻では、食品学・調理学・栄養学のうち臨床栄養学を重視した栄養学を重点的に学び、食生活の様々な要素に関連づけ、実験・実習をとおしてそれらを科学的に分析、理解できる力を培い、病院・福祉施設・学校・保健所など、保健・医療・福祉・教育・行政の分野で人々の生活の質の向上に貢献できる管理栄養士を養成する。

生活科学部 食物栄養科学科 食物科学専攻

科目名	履修単位
〔基礎教育科目〕	
○ 必修科目	
有機化学	2
基礎統計学	2
生物学実験 A	2
化学実験 A	2
○ 選択科目	
生物の基礎	2
科学の基礎	2
情報処理 I	2
情報処理 II	2
〔入門・概論科目〕	
○ 必修科目	
生活科学概論	2
○ 選択科目	
食物学のための数学と物理	2
〔応用・各論科目〕	
○ 必修科目	
食品化学 I	2
食品化学 II	2
生化学	2
栄養学	2
調理科学 I	2
調理科学 II	2
食品物性学	2
食物英書講読	2
食生活論	2
調理科学実習 I	1
調理科学実習 II	1

調理科学実験	2
食品分析化学実験	2
食品加工・物性学実験	2
食品バイオテクノロジー実験	2
調理科学実習Ⅲ	1
調理科学実習Ⅳ	1
○ 選択科目	
食品微生物学	2
食品衛生学 A	2
運動健康論	2
食品加工貯蔵学	2
食品バイオテクノロジー	2
食品官能評価論	2
食品流通論	2
食品分析化学	2
食文化論	2
公衆衛生学	2
応用栄養学	2
生活経済学	2
被服学	2
住居学	2
保育学	2
京の料理と菓子	2
京の食材論	2
家庭機械および電気	2
家庭経営学	2
保育学実習	1
インターンシップⅡ	2
フードスペシャリスト論	2
フードコーディネーター論	2
食と健康管理	2
被服製作実習基礎Ⅰ	1
被服製作実習基礎Ⅱ	1
〔卒業論文〕	
○ 必修科目	
卒業論文	8

履修方法（食物栄養科学科 食物科学専攻）

必修科目60単位、選択科目46単位、選択科目の最低履修単位数を超える修得単位数18単位以上、計124単位以上履修しなければならない。

卒業単位一覧表

授業区分	必修・選択の区分	
	必修	選択
基礎教育科目	8	2
入門・概論科目	2	
応用・各論科目	30	26
共通学芸科目		10
キリスト教・同志社関係科目	4	2
外国語科目	8	4
スポーツ・健康科目		2
卒業論文	8	
選択科目の最低履修単位数を超える修得単位数		18
合計	60	64
	124	

生活科学部 食物栄養科学科 管理栄養士専攻
科目名

履修単位

〔基礎教育科目〕

○ 必修科目

栄養素の化学	2
生物学実験 B	1
化学実験 B	1

○ 選択科目

生物の基礎	2
化学の基礎	2
情報処理 I	2
情報処理 II	2

〔入門・概論科目〕

○ 必修科目

社会福祉学 B	2
---------	---

〔応用・各論科目〕

○ 必修科目

生化学 I	2
生化学 II	2
解剖生理学 I	2
解剖生理学 II	2
基礎栄養学 I	2
応用栄養学 I	2
応用栄養学 II	2
食品学総論	2
食品学各論	2
調理科学	2
給食経営管理論 I	2
給食経営管理論 II	2
臨床栄養学 I	2
臨床栄養学 II	2
臨床栄養学 III	2
臨床栄養学 IV	2
臨床病態学 I	2
臨床病態学 II	2
食品衛生学 B	2
食品加工学	2
公衆栄養学 I	2
公衆栄養学 II	2
公衆衛生学 I	2
公衆衛生学 II	2
栄養教育論 I	2
栄養教育論 II	2
栄養教育論 III	2
応用栄養学 III	2
総合演習 A	2
総合演習 B	1
卒業演習	2
調理科学実習 I	1
調理科学実習 II	1
食事計画実習	1
解剖生理学実験	1
生化学実験	2
食品学実験	1
食品加工学実験	1
臨床栄養学実習 A	2

臨床栄養学実習 B	1
臨床病態学実習	1
公衆衛生学実習 A	1
公衆衛生学実習 B	1
応用栄養学実習	1
基礎栄養学実験	1
栄養教育実習	1
給食経営管理実習（学内実習）	1
公衆栄養学実習（学内実習）	1
公衆栄養学実習（臨地実習）	1
臨床栄養学実習 I（臨地実習）	1
給食の運営（校外実習）	1
基礎栄養学 II	2
臨床病態学 III	2
○ 選択必修科目	
給食経営管理実習（臨地実習）	1
臨床栄養学実習 II（臨地実習）	1
○ 選択科目	
学校栄養教育論 I	2
学校栄養教育論 II	2
薬物学	2
〔卒業論文〕	
○ 選択科目	
卒業論文	8

履修方法（食物栄養科学科 管理栄養士専攻）

必修科目105単位、選択科目15単位、選択科目の最低履修単位数を超える修得単位数18単位以上、計138単位以上履修しなければならない。

卒業単位一覧表

授業区分	必修・選択の区分	
	必修	選択
基礎教育科目	4	
入門・概論科目	2	
応用・各論科目	87	1
共通学芸科目		10
キリスト教・同志社関係科目	4	2
外国語科目	8	
スポーツ・健康科目		2
卒業論文		
選択科目の最低履修単位数を超える修得単位数		18
合計	105	33
	138	

現代社会学部

人材養成目的

現代社会学部は、建学の理念を踏まえ、社会科学的見地から現代社会の諸問題を追求し、これらの諸問題の是正方向を女性の視点から主体的に考察・提言できる諸能力と、特定の活動領域やライフステージに限定されない、現代社会を生き抜くための普遍的な力を身に付け、社会の各方面で主体的に判断し、活躍できる人材を養成することを目的とする。

現代社会学部 社会システム学科

人材養成目的

社会システム学科は、21世紀の多様な社会システムにおける女性のライフステージを視野におき、多文化共生コース、京都学・観光学コース、ライフデザインコース、ビジ

ネスマネジメントコース、公共政策と法コースの5コースを設け、専門的な能力の開発をととして、現代社会の各方面で主体的に判断し、活躍できる人材を養成することを目的とする。

科目名	履修単位
〔基礎・入門科目〕	
○ 必修科目	
基礎演習	2
現代社会入門	2
社会リサーチ入門	2
シティズンシップ入門	2
法からみる現代社会	2
〔概論科目〕	
○ 選択科目	
社会学概論	2
倫理学概論	2
法学概論	2
文化人類学概論	2
教育学概論	2
観光学概論	2
経済学概論	2
比較文化概論	2
政治学概論	2
社会心理学概論	2
京都観光学概論	2
経営学概論	2
博物館概論	2
京都学概論	2
〔応用・各論科目〕	
○ 必修科目	
(コミュニケーション系科目)	
Academic Reading and Discussion I	2
Academic Reading and Discussion II	2
○ 選択科目	
(コミュニケーション系科目)	
Communication Skills I	1
Communication Skills II	1
Academic Writing and Discussion I	2
Academic Writing and Discussion II	2
(多文化共生コース)	
国際関係史	2
国際教育論	2
東洋の歴史 I	2
東洋の歴史 II	2
宗教と世界史	2
異文化理解	2
国際交流史	2
オセアニア地域文化論	2
ヨーロッパ地域文化論 I	2
ヨーロッパの人と社会	2
ヨーロッパ地域文化論 II	2
ヨーロッパの人と文化	2
アジア太平洋地域発展論	2
アメリカ地域文化論	2
多文化共生とこども	2
世界の貧困問題とこども支援	2
ユニセフとこども支援	2
世界のこども政策	2

Academic Studies in English I (A)	2
Academic Studies in English II (A)	2
Academic Studies in English I (B)	2
Academic Studies in English II (B)	2
アジア地域文化論	2
グローバル社会論	2
エスニシティ論	2
カルチュラルスタディーズ	2
移民難民論	2
地誌学 I	2
地誌学 II	2
(京都学・観光学コース)	
京都文化論	2
京都伝統芸能論	2
京都文化資料論	2
京都・大阪の歴史地理	2
京都の社会史	2
日本の歴史 I	2
日本の歴史 II	2
ホスピタリティマネジメント論	2
観光社会論	2
京都観光論	2
観光マーケティング論	2
国際観光論	2
観光経営論	2
観光地域事業論	2
観光イノベーション論	2
ホスピタリティ産業論	2
Academic Studies in English I (C)	2
Academic Studies in English II (C)	2
Academic Studies in English I (D)	2
Academic Studies in English II (D)	2
観光地理論	2
Tourism, Culture, and Technology I	2
Tourism, Culture, and Technology II	2
京都の美術史	2
京都の文化財論	2
地域調査法	2
考古学 I	2
考古学 II	2
博物館経営論	2
博物館資料論	2
博物館資料保存論	2
博物館展示論	2
博物館教育論	2
博物館情報・メディア論	2
京都フィールドワーク	2
地理学	2
まちづくりの地理学	2
(ライフデザインコース)	
レジャースポーツ論	2
ウェルネスライフ論	2
生涯学習論	2
現代青年の心理と行動	2
情報社会心理学	2
音楽療法	2
生命の倫理	2

ジェンダー論	2
女性史	2
女性とリーダーシップ	2
宗教と人間	2
障害学	2
女性と社会保障	2
心理臨床学	2
対人関係心理学	2
高齢者心理学	2
生涯発達心理学	2
社会福祉調査法	2
社会福祉論	2
教育社会学	2
こども福祉論	2
ジェンダーの社会心理学	2
家族臨床心理学	2
現代社会論	2
家族社会論	2
社会倫理学	2
Academic Studies in English I (E)	2
Academic Studies in English II (E)	2
Academic Studies in English I (F)	2
Academic Studies in English II (F)	2
ケアの人間学	2
カウンセリング論	2
現代教育学	2
コミュニティマネジメント論	2
キャリア形成論	2
現代社会と宗教	2
(ビジネスマネジメントコース)	
国際企業論	2
国際金融論	2
経営哲学	2
環境経済論	2
経済政策論	2
都市経済論	2
簿記論 I	2
簿記論 II	2
会計学	2
財務諸表論	2
マーケティング論	2
広告論	2
社会情報論	2
財政学	2
金融論	2
女性企業家論	2
流通論	2
国際ビジネス論	2
こども産業論	2
Academic Studies in English I (G)	2
Academic Studies in English II (G)	2
Academic Studies in English I (H)	2
Academic Studies in English II (H)	2
ネットビジネス論	2
ベンチャービジネス論	2
証券キャピタルマーケット論	2
情報ネットワーク基礎	2

マーケティング調査法	2
原価計算	2
経済学ステップアップ	2
国際環境政策論	2
企業の社会的責任	2
ディスクロージャー論	2
保険論	2
人的資源論	2
情報学	2
経営学ステップアップ	2
ビジネス統計・数学	2
(公共政策と法コース)	
民法 I	2
刑法総論	2
刑法各論	2
家族法	2
家族法の重要問題	2
憲法 I	2
憲法 II	2
物権法の重要問題	2
債権法の重要問題	2
民法 II	2
金融取引と法	2
商法	2
企業と法	2
刑法の重要問題	2
刑事司法の重要問題	2
国際法	2
こどもと法	2
ジェンダー法	2
現代社会と犯罪	2
民事訴訟法	2
刑事訴訟法	2
行政法	2
労働法	2
税金と法	2
知的財産権法	2
社会保障と法	2
公務員と法	2
Academic Studies in English I (I)	2
Academic Studies in English II (I)	2
Academic Studies in English I (J)	2
Academic Studies in English II (J)	2
地方行政論	2
安全保障論	2
外交論	2
現代の政治	2
国連政策論	2
国際社会協力政策論	2
都市政策論	2
国際社会と公共政策	2
社会保障論	2
(情報活用科目)	
○ 選択科目	
情報活用実習 I	2
情報活用実習 II	2
情報活用実習 III	2

情報活用実習 IV	2
情報活用実習 V	2
(キャリアデザイン科目)	
○ 選択科目	
インターンシップ II	2
ライフデザイン	2
キャリアアップ英語 I	2
キャリアアップ英語 II	2
World Affairs I	2
World Affairs II	2
キャリアアップ英語 III	2
キャリアアップ英語 IV	2
Communication Skills for Work I	2
Communication Skills for Work II	2
English for Work I	2
English for Work II	2
(プロジェクト科目)	
○ 選択科目	
プロジェクト演習 I	2
プロジェクト演習 II	2
Project-Based English I	2
Project-Based English II	2
[ゼミナール科目]	
○ 必修科目	
卒業研究 I	2
卒業研究 II	2
応用演習 I	2
応用演習 II	2
○ 選択科目	
専門基礎演習	2
[自由選択科目]	
○ 自由選択科目	
コンピュータ活用	2
[博物館学芸員課程科目]	
○ 自由選択科目	
博物館実習	3

履修方法（社会システム学科）

必修科目30単位、選択科目74単位、選択科目の最低履修単位数を超える修得単位数20単位以上、計124単位以上履修しなければならない。

卒業単位一覧

授業区分	必修・選択の区分	
	必修	選択
基礎・入門科目	10	
概論科目		8
応用・各論科目	4	48
共通学芸科目		10
キリスト教・同志社関係科目	4	2
外国語科目	4	4
スポーツ・健康科目		2
ゼミナール科目	8	
選択科目の最低履修単位数を超える修得単位数		20
合計	30	94
	124	

現代社会学部 現代こども学科

人材養成目的

現代こども学科は、こどもに関わる専門的内容を修得して世界の見方を広げるとともに、課題の探究をとおして、あらゆる分野で必要な問題解決能力とコミュニケーション能力を身に付け、これらの力を用いて、未来を担うこどもが大切にされる社会をつくるために、こどもに関わる各分野でパイオニア的に活躍できる人材を養成することを目的とする。

科目名	履修単位
〔導入科目〕	
○ 必修科目	
基礎演習	1
現代こども学概論	2
〔入門・概論科目〕	
○ 必修科目	
教育とこどもの社会史	2
こどもの発達心理学	2
○ 選択科目	
遊びの社会学	2
児童文化論	2
教育社会学	2
こども福祉論	2
地域社会とこども	2
ユニセフとこども支援	2
国際スポーツ文化論	2
こどもと風俗	2
世界のこども政策	2
こども産業論	2
社会福祉論	2
社会学概論	2
倫理学概論	2
教育学概論	2
社会心理学概論	2
生涯発達心理学	2
ジェンダー論	2
生命の倫理	2
社会的養護	2
保育の心理学	1
〔応用・各論科目〕	
○ 必修科目	
(学びと育ちの内容)	
幼児教育内容総論	2
(学びと育ちのアート)	
教職論	2
教育課程論	2
児童理解と指導	2
教育方法と技術	2
道德教育論	2
特別活動論	2
教育相談	2
(こども学の実践)	
フィールドワーク入門	2
○ 選択科目	
(学びと育ちの内容)	
地球環境論	2
数の社会学	2
こどもスポーツ論	2

現代アニメ研究	2
こどもと人権	2
多文化共生とこども	2
世界の貧困問題とこども支援	2
こども英語論	2
理科実験・ものづくり	2
現代社会論	2
家族社会論	2
児童文学論	2
国語	2
社会	2
理科	2
生活	2
算数	2
家庭	2
体育	2
音楽	2
図画工作	2
保育内容（環境）	2
保育内容（ことば）	2
保育内容（表現）	2
保育内容（健康）	2
保育内容（人間関係）	2
レジャースポーツ論	2
こどもの医療	2
乳児保育	2
障がい児保育	2
社会的養護内容	1
保育相談支援	1
（学びと育ちのアート）	
幼児・児童教育論	2
異文化体験論	2
教育の歴史	2
遊びと論理的思考	2
学習環境デザイン	2
生涯学習論	2
教育評価論	2
自然環境体験論	2
こども調査統計法	2
対人関係心理学	2
こども英語指導法	2
特別支援教育	2
家族臨床心理学	2
算数科指導法	2
国語科指導法	2
社会科指導法	2
理科指導法	2
生活科指導法	2
家庭科指導法	2
図画工作科指導法	2
体育科指導法	2
音楽科指導法	2
幼児教育指導法総論	2
幼児音楽	2
相談援助	1
こどもの保健 I A	2
こどもの保健 I B	2

こどもの保健 II	1
こどもの食と栄養	2
家庭支援論	2
幼児教育課程総論	2
幼児理解	2
こどもとアート	2
(こども学の実践)	
ボランティア活動論	2
コミュニケーションデザイン	2
メディア表現ワークショップ	2
初等教育実習 A	5
初等教育実習 B	3
初等教育実習 C	2
こども英語ワークショップ	2
海外こども事情 A	2
海外こども事情 B	2
身体表現	2
教職演習	2
インターンシップ II	2
保育実習 I A	2
保育実習 I B	2
保育実習指導 I A	1
保育実習指導 I B	1
保育実習 II	2
保育実習指導 II	1
保育実習 III	2
保育実習指導 III	1
ピアノ奏法 I	1
ピアノ奏法 II	1
〔ゼミナール科目〕	
○ 必修科目	
こども学演習	1
応用演習 I	2
応用演習 II	2
卒業研究 I	2
卒業研究 II	2
〔自由選択科目〕	
○ 自由選択科目	
コンピュータ活用	2

履修方法（現代こども学科）

必修科目48単位、選択科目70単位、選択科目の最低履修単位数を超える修得単位数14単位以上、計132単位以上履修しなければならない。

卒業単位一覧表

授業区分	必修・選択の区分	
	必修	選択
導入科目	3	
入門・概論科目	4	10
応用・各論科目	18	46
共通学芸科目	6	6
キリスト教・同志社関係科目	4	2
外国語科目	4	4
スポーツ・健康科目		2
ゼミナール科目	9	

選択科目の最低履修単位数を超える修得単位数		14
合計	48	84
	132	

表象文化学部

人材養成目的

表象文化学部は、建学の理念を踏まえ、日本語と英語についての理解を深め、その運用能力を高めるとともに、言語芸術のみならず、舞台演劇など総合芸術においても表現されるそれぞれの国の文化を深く理解する能力と効果的に伝達する能力を身に付け、国際的に活躍できる人材を養成することを目的とする。

表象文化学部 英語英文学科

人材養成目的

英語英文学科は、英米の文学・文化・言語・コミュニケーションの教育・研究分野において、英語4技能（「話す、聞く、読む、書く」）の徹底したトレーニングをとおして高度な英語運用能力を身に付けるだけでなく、文化伝達の主要な媒体としての言語また文化の表象としての言語を学ぶ意味と意義を理解し、国内外の社会に貢献できる人材を養成することを目的とする。

科目名	履修単位
〔学部共通科目〕	
○ 選択科目	
文学と表象 A	2
文学と表象 B	2
文化と表象 A	2
文化と表象 B	2
舞台芸術文化論	2
メディアと表象文化	2
〔基礎教育科目〕	
○ 必修科目	
Reading I	2
Reading II	2
Writing Skills I	2
Writing Skills II	2
○ 選択科目	
Speaking I	1
Speaking II	1
Intermediate Speaking I	1
Intermediate Speaking II	1
Advanced Speaking I	1
Advanced Speaking II	1
Active Listening I	1
Active Listening II	1
Intermediate Active Listening I	1
Intermediate Active Listening II	1
Advanced Active Listening I	1
Advanced Active Listening II	1
英語情報処理演習 I	2
英語情報処理演習 II	2
Reading III	2
Reading IV	2
Reading III (A E S A)	2
Reading IV (A E S A)	2
Reading III (A E S B)	2
Reading IV (A E S B)	2
Writing Strategies I	2
Writing Strategies II	2
Writing Strategies I (A E S A)	2

Writing Strategies II (A E S A)	2
Writing Strategies I (A E S B)	2
Writing Strategies II (A E S B)	2
Public Speaking I	1
Public Speaking II	1
Public Speaking I (A E S A)	1
Public Speaking II (A E S A)	1
Public Speaking I (A E S B)	1
Public Speaking II (A E S B)	1
Active Listening III	1
Active Listening IV	1
Active Listening III (A E S A)	1
Active Listening IV (A E S A)	1
Active Listening III (A E S B)	1
Active Listening IV (A E S B)	1
Academic Skills I	2
Academic Skills II	2
Academic Skills I (A E S A)	2
Academic Skills II (A E S A)	2
Academic Skills I (A E S B)	2
Academic Skills II (A E S B)	2
CALL English I	2
CALL English II	2
CALL English I (A E S)	2
CALL English II (A E S)	2
〔入門・概論科目〕	
○ 必修科目	
イギリス文化入門	2
アメリカ文化入門	2
アメリカ文学史	2
イギリス文学史	2
言語コミュニケーション入門 I	2
言語コミュニケーション入門 II	2
○ 選択科目	
英語音声学 I	2
英語音声学 II	2
イギリス文化研究	2
アメリカ文化研究	2
英語学概論 I	2
英語学概論 II	2
外国語教育論 I	2
外国語教育論 II	2
〔応用・各論科目〕	
(イギリス文化・文学研究科目群)	
○ 選択科目	
Topics in English A	2
Studies in English A	2
Studies in English B	2
イギリスの表象文化	2
イギリスの社会と文化	2
Shakespeare Production I	2
Shakespeare Production II	2
Advanced Studies in English A	2
Advanced Studies in English B	2
イギリス文化・文学研究 A	2
イギリス文化・文学研究 B	2
Shakespeare Production III	8

(アメリカ文化・文学研究科目群)

○ 選択科目

Topics in English B	2
Studies in English C	2
Studies in English D	2
アメリカの社会と文化	2
アメリカの表象文化	2
Advanced Studies in English C	2
Advanced Studies in English D	2
アメリカ文化・文学研究 A	2
アメリカ文化・文学研究 B	2

(比較文化・文学研究科目群)

○ 選択科目

Topics in English E	2
Studies in English E	2
Studies in English F	2
Studies in English G	2
Studies in English H	2
ファンタジーの系譜 I	2
ファンタジーの系譜 II	2
比較文化・文学研究 A	2
比較文化・文学研究 B	2
Advanced Studies in English E	2
Advanced Studies in English F	2
Advanced Studies in English G	2

(言語研究科目群)

○ 選択科目

Topics in English C	2
Topics in English F	2
Studies in English I	2
Studies in English J	2
Studies in English K	2
コーパス言語学	2
教育メディア学	2
ラテン語 I	2
ラテン語 II	2
社会言語学	2
応用言語学	2
日英対照言語研究 A	2
日英対照言語研究 B	2
第二言語習得論 I	2
第二言語習得論 II	2
社会と外国語教育 A	2
社会と外国語教育 B	2

(コミュニケーション研究科目群)

○ 選択科目

Topics in English D	2
Topics in English G	2
Studies in English L (A E S)	2
Studies in English M (A E S)	2
ジェンダーとコミュニケーション	2
プラクティカル コミュニケーション	2
Advanced Studies in English H	2
Advanced Studies in English I	2
Advanced Studies in English J	2
Advanced Studies in English K	2
Advanced Studies in English L	2

(キャリアデザイン科目群)

○ 必修科目

Career Introduction I 2

○ 選択科目

Career Introduction II 2

TOEIC演習 I 2

TOEIC演習 II 2

TOEIC800 I 2

TOEIC800 II 2

翻訳法 I 2

翻訳法 II 2

Pronunciation Skills I 2

Pronunciation Skills II 2

Presentation Skills I 2

Presentation Skills II 2

通訳法 I 2

通訳法 II 2

翻訳法 III 2

翻訳法 IV 2

ビジネス イングリッシュ I 2

ビジネス イングリッシュ II 2

エアライン イングリッシュ 2

セクレタリー イングリッシュ 2

メディア イングリッシュ I 2

メディア イングリッシュ II 2

児童英語教育法 I 2

児童英語教育法 II 2

インターンシップ II 2

Advanced Presentation I 2

Advanced Presentation II 2

Advanced Pronunciation I 2

Advanced Pronunciation II 2

プロフェッショナル通訳法 2

プロフェッショナル翻訳法 2

TOEFL・IELTS初級 I 2

TOEFL・IELTS初級 II 2

TOEFL・IELTS中級 I 2

TOEFL・IELTS中級 II 2

(京都研究科目群)

○ 選択科目

英語で読む日本昔話 2

英語で読む京都印象記 2

京都文化概論 2

京ことば 2

京都を読む・歩く・見る 2

英語で案内する京都 I 2

英語で案内する京都 II 2

英語で読む日本文学 2

京都の中の外国文化 2

源氏物語と京都 2

京都の劇文学とワークショップ 2

[ゼミナール科目]

○ 必修科目

英米文学基礎ゼミナール I 2

英米文学基礎ゼミナール II 2

Junior Seminar I 2

Junior Seminar II 2

Senior Seminar I	2
Senior Seminar II	2

履修方法（英語英文学科）

必修科目38単位、選択科目76単位、選択科目の最低履修単位数を超える修得単位数10単位以上、計124単位以上履修しなければならない。

卒業単位一覧表

授業区分	必修・選択の区分	
	必修	選択
学部共通科目		2
基礎教育科目	8	26
入門・概論科目	12	2
応用・各論科目	2	28
ゼミナール科目	12	
共通学芸科目		10
キリスト教・同志社関係科目	4	2
外国語科目		4
スポーツ・健康科目		2
選択科目の最低履修単位数を超える修得単位数		10
合計	38	86
	124	

表象文化学部 日本語日本文学科

人材養成目的

日本語日本文学科は、近代文学・古典・現代日本語・日本語教育を四つの柱として、それぞれの領域をバランスよく学ぶとともに、各領域で育んだ関心や興味を更に発展させ、多角的な視点から日本文化に迫り、その本質を理解できる力を身に付けることによって、常に自分の考えを持って行動し、自分を表現できる真の国際人を養成することを目的とする。

科目名

履修単位

〔学部共通科目〕

○ 選択科目

文学と表象 A	2
文学と表象 B	2
文化と表象 A	2
文化と表象 B	2
舞台芸術文化論	2
メディアと表象文化	2

〔導入科目〕

○ 必修科目

基礎リテラシー	2
---------	---

○ 選択科目

近代文学入門	2
古典入門	2
現代日本語学入門	2
日本語教育入門	2

〔基礎科目〕

○ 必修科目

日本語学の世界	2
日本文学の世界	2

〔基幹科目〕

（近代文学）

○ 選択科目

創作 A	2
創作 B	2
日本近代文学史 A	2
日本近代文学史 B	2
作家研究 A	2
作家研究 B	2
作家研究 C	2
作家研究 D	2
作家研究 E	2
作家研究 F	2
近代文学特論 A	2
近代文学特論 B	2
表現研究 A	2
表現研究 B	2
表現研究 C	2
表現研究 D	2
作品研究 A	2
作品研究 B	2
日本民俗学 A	2
日本民俗学 B	2
(古典)	
○ 選択科目	
日本古典文学史 A	2
日本古典文学史 B	2
漢文学 A	2
漢文学 B	2
古典芸能 A	2
古典芸能 B	2
上代文献講読 A	2
上代文献講読 B	2
平安文献講読 A	2
平安文献講読 B	2
中世文献講読 A	2
中世文献講読 B	2
近世文献講読 A	2
近世文献講読 B	2
漢文学特論 A	2
漢文学特論 B	2
日本語の変化 A	2
日本語の変化 B	2
特殊講義 A (上代文学)	2
特殊講義 B (平安文学)	2
特殊講義 C (中世文学)	2
特殊講義 D (近世文学)	2
書誌学 A	2
書誌学 B	2
学校文法	2
特殊講義 F (漢文学)	2
(現代日本語)	
○ 選択科目	
言語学概説 A	2
言語学概説 B	2
日本語の構造 A (文法Ⅰ)	2
日本語の構造 B (文法Ⅱ)	2
日本語の構造 C (語彙Ⅰ)	2
日本語の構造 D (語彙Ⅱ)	2
日本語の構造 E (音声Ⅰ)	2

日本語の構造 F (音声Ⅱ)	2
日本語の構造 G (表記)	2
言語情報解析	2
日本語の運用 A	2
日本語の運用 B	2
日本語学テーマ研究 A	2
日本語学テーマ研究 B	2
日本語学テーマ研究 C	2
日本語学テーマ研究 D	2
日本語学テーマ研究 E	2
日本語学テーマ研究 F	2
日英対照言語研究 A	2
日英対照言語研究 B	2
日中対照言語研究 A	2
日中対照言語研究 B	2
(日本語教育)	
○ 選択科目	
日本語教材論 A	2
日本語教材論 B	2
コースデザイン論	2
日本語教育文法 A	2
日本語教育文法 B	2
日本語教育史	2
日本事情と日本語教育 I	2
日本事情と日本語教育 II	2
外国語教育論 I	2
外国語教育論 II	2
日本語指導 A	2
日本語指導 B	2
教室活動論 A	2
教室活動論 B	2
社会と外国語教育 A	2
社会と外国語教育 B	2
インターンシップ II	2
日本語教育概説	2
○ 自由選択科目	
日本語 A I	1
日本語 A II	1
日本語 A III	1
日本語 A IV	1
日本語 B I	1
日本語 B II	1
日本語 B III	1
日本語 B IV	1
日本語 C I	1
日本語 C II	1
日本語 C III	1
日本語 C IV	1
日本語解説 I A	2
日本語解説 I B	2
日本語会話 I A	2
日本語会話 I B	2
日本語作文 I A	2
日本語作文 I B	2
日本語聴解 I A	2
日本語聴解 I B	2
日本語読解 II A	2

日本語読解	Ⅱ B	2
日本語会話	Ⅱ A	2
日本語会話	Ⅱ B	2
日本語作文	Ⅱ A	2
日本語作文	Ⅱ B	2
日本語聴解	Ⅱ A	2
日本語聴解	Ⅱ B	2
(表象と表現)		
○ 選択科目		
身体表現		2
日本語表現	A	2
日本語表現	B	2
コピーライティング		2
ウェブ・コンテンツ	I	2
ウェブ・コンテンツ	II	2
書道	A	2
書道	B	2
フィールド・ワーク		2
アナウンス論		2
朗読		2
編集技術	I	2
編集技術	II	2
演劇と演技	I	2
演劇と演技	II	2
(京都研究)		
○ 選択科目		
英語で読む日本昔話		2
英語で読む京都印象記		2
京都を読む・歩く・見る		2
英語で案内する京都	I	2
英語で案内する京都	II	2
英語で読む日本文学		2
京ことば		2
京都の中の外国文化		2
源氏物語と京都		2
京都の劇文学とワークショップ		2
京都文化概論		2
〔ゼミナール科目〕		
○ 必修科目		
卒業研究		2
○ 選択科目		
近代文学基礎演習	I	2
近代文学基礎演習	II	2
古典基礎演習	I	2
古典基礎演習	II	2
日本語学基礎演習	I	2
日本語学基礎演習	II	2
日本語教育基礎演習	I	2
日本語教育基礎演習	II	2
演習	I A	2
演習	II A	2
演習	I B	2
演習	II B	2
演習	I C	2
演習	II C	2
演習	I D	2
演習	II D	2

演習	I E	2
演習	II E	2
演習	I F	2
演習	II F	2
演習	I G	2
演習	II G	2
演習	I H	2
演習	II H	2
演習	I I	2
演習	II I	2
演習	I J	2
演習	II J	2
演習	I K	2
演習	II K	2
演習	I L	2
演習	II L	2
演習	I M	2
演習	II M	2
演習	I N	2
演習	II N	2
演習	I O	2
演習	II O	2
〔卒業論文〕		
○ 必修科目		
卒業論文		2
〔自由選択科目〕		
○ 自由選択科目		
コンピュータ活用		2
国語教育演習 I		2
国語教育演習 II		2

履修方法（日本語日本文学科）

必修科目22単位、選択科目82単位、選択科目の最低履修単位数を超える修得単位数20単位以上、計124単位以上履修しなければならない。

卒業単位一覧

授業区分	必修・選択の区分	
	必修	選択
学部共通科目		2
導入科目	2	4
基礎科目	4	
基幹科目		44
ゼミナール科目	2	8
卒業論文	2	
共通学芸科目		16
キリスト教・同志社関係科目	4	2
外国語科目	8	4
スポーツ・健康科目		2
選択科目の最低履修単位数を超える修得単位数		20
合計	22	102
	124	

薬学部
人材養成目的

薬学部は、建学の理念を踏まえ、リベラル・アーツ教育に基づいた豊かな教養、キリスト教主義に基づいた思いやりと倫理観を備え、国際的に通用する高度な専門性を発揮する能力を高めることにより、薬学の発展に寄与することのできる人材を養成することを目的とする。

薬学部 医療薬学科

人材養成目的

医療薬学科は、最先端の薬学領域である医療や創薬現場で活躍できる研究能力をもち、幅広い教養と人間性、国際性を兼ね備えた、高度医療に対応できる薬剤師を養成することを目的とする。

科目名	履修単位
〔基礎教育科目〕	
○ 必修科目	
基礎数学	1.5
基礎化学	1.5
基礎生物学	1.5
基礎物理化学	1.5
生物統計学	1.5
〔入門・概論科目〕	
○ 必修科目	
臨床薬学概論	1.5
臨床医学概論	1.5
看護・介護学概論	1.5
医療倫理入門	1.5
早期体験学習 I	1.5
早期体験学習 II	1.5
〔応用・各論科目〕	
○ 必修科目	
機能形態学 I	1.5
生命物理化学 I	1.5
有機化学 I	1.5
医薬品分析化学 I	1.5
生薬学 I	1.5
生化学 I	1.5
機能形態学 II	1.5
生命物理化学 II	1.5
有機化学 II	1.5
医薬品分析化学 II	1.5
生薬学 II	1.5
微生物学	1.5
生化学 II	1.5
病態生理学	1.5
物理薬剤学	1.5
食品衛生化学	1.5
有機化学 III	1.5
機器分析学	1.5
衛生化学	1.5
分子生物薬学	1.5
基礎病理学	1.5
薬理学 I	1.5
薬物動態学 I	1.5
製剤学	1.5
医薬品無機・放射化学	1.5
有機化学 IV	1.5
生体分析化学	1.5
公衆衛生学	1.5
病態生化学 I	1.5
薬理学 II	1.5

薬理学 III	1.5
薬物治療学 I	1.5
調剤学 I	1.5
薬物動態学 II	1.5
天然医薬品化学	1.5
環境衛生学	1.5
免疫・感染症学	1.5
病態生化学 II	1.5
医薬品毒性学	1.5
薬理学 IV	1.5
薬物治療学 II	1.5
臨床薬剤学 I	1.5
臨床薬剤学 II	1.5
薬物治療学 III	1.5
臨床病態生化学	1.5
医療安全性学	1.5
日本薬局方概論	1.5
実務実習事前学習 I	3
医薬品情報学	1.5
薬事関連法規・制度	1.5
薬局管理学	1.5
薬業経済学	1.5
実務実習事前学習 II	3
臨床病理学	1.5
調剤学 II	1.5
処方解析学	1.5
チーム医療実践演習	1.5
処方提案論	1.5
有機化学実習	1
生化学実習	1
生命物理化学実習	1
医薬品分析化学実習	1
生薬学実習	1
薬剤学実習	1
微生物学実習	1
薬理学実習	1
衛生薬学実習	1
薬物治療学実習	1
模擬病院・薬局実習	3
病院実務実習	10
薬局実務実習	10
○ 選択必修科目	
薬理学特論	1
臨床薬理学特論	1
創薬化学特論	1
ゲノム創薬特論	1
新薬開発特論	1
感染対策特論	1
免疫・感染症学特論	1
東洋医学特論	1
薬剤管理指導特論	1
臨床栄養学特論	1
薬学特別演習 A	4
薬学特別演習 B	4
個別化医療特論	1
セルフメディケーション・在宅医療特論	1
○ 選択科目	

インターンシップ II	2
健康科学概論	2
医療・薬物治療概論	2
〔卒業研究〕	
○ 必修科目	
薬学基礎研究	2
薬学研究 I	4
薬学研究 II	4
薬学研究 III	4

履修方法（医療薬学科）

必修科目164.5単位、選択科目20単位、選択科目の最低履修単位数を超える修得単位数2単位以上、計186.5単位以上履修しなければならない。

卒業単位一覧表

授業区分	必修・選択の区分	
	必修	選択
基礎教育科目	7.5	
入門・概論科目	9	
応用・各論科目	123	10
共通学芸科目		6
キリスト教・同志社関係科目	4	2
外国語科目	7	
スポーツ・健康科目		2
卒業研究	14	
選択科目の最低履修単位数を超える修得単位数		2
合計	164.5	22
	186.5	

看護学部

人材養成目的

看護学部は、建学の理念を踏まえ、リベラル・アーツ教育に基づいた豊かな教養、キリスト教主義に基づいた思いやりと倫理観を備え、国際的に通用する高度な専門性を発揮する能力を高めることにより、わが国の保健・医療や福祉分野の充実・発展に寄与することのできる人材を養成することを目的とする。

看護学部 看護学科

人材養成目的

看護学科は、保健、医療、福祉等の場で活躍できる質の高い看護実践能力をもち、幅広い教養と人間性、国際性を兼ね備えた、質の高い看護職者を養成することを目的とする。

科目名	履修単位
〔専門基礎科目〕	
○ 必修科目	
（人体の構造と機能科目）	
体のしくみ	2
基盤病理学	2
微生物学・免疫学	2
基礎栄養学	2
基礎薬理学	2
外科疾病・治療学	2
内科疾病・治療学	2
こころのしくみと保健医療	2
成育医療学	2
（健康支援と社会保障科目）	
疫学	2

公衆衛生学	2
看護と法律	2
○ 選択科目	
(人体の構造と機能科目)	
健康心理学	2
(健康支援と社会保障科目)	
家族関係論	2
保健医療システム論	2
保健医療統計	2
[専門科目]	
○ 必修科目	
(看護基盤科目)	
看護学概論	2
看護理論	1
ヘルスアセスメント	1
フィジカルアセスメント	1
生活援助技術	2
診療補助技術	2
看護過程論	1
看護コミュニケーション論	1
睡眠改善学	2
基礎看護学実習 I	1
基礎看護学実習 II	2
(看護展開科目)	
成人看護学概論	2
成人急性期看護援助論	1
成人リハビリテーション期看護援助論	1
成人慢性期看護援助論 A	1
成人慢性期看護援助論 B	1
がん看護援助論	1
成人急性期看護学実習	3
成人慢性期看護学実習	3
精神看護学概論	2
精神看護援助論 A	1
精神看護援助論 B	1
精神看護学実習	2
母子保健看護概論	2
小児看護援助論 A	1
小児看護援助論 B	1
小児看護学実習	2
ウイメンズヘルス援助論 A	1
ウイメンズヘルス援助論 B	1
ウイメンズヘルス実習	2
高齢者看護学概論	2
高齢者看護援助論 A	1
高齢者看護援助論 B	1
高齢者看護学実習	3
在宅看護援助論 A	1
在宅看護援助論 B	1
在宅看護学実習	2
公衆衛生看護学概論	2
健康教育論	1
国際保健	1
国際看護活動論	1
(看護探究科目)	
卒業研究 I	1
卒業研究 II	2

卒業研究 III	2
看護実践総合演習 I	1
看護実践総合演習 II	1
看護実践総合演習 III	1
看護実践総合演習 IV	1
看護実践総合実習 (アドバンス)	3
看護倫理	1
看護マネジメント	1
○ 選択科目	
(看護探究科目)	
学校保健	2
近代看護教育の歴史	1
看護キャリアデザイン論	1
災害看護論	1
セルフケア支援論	1
終末期看護論	1
補完代替医療	1
臨床遺伝学と看護	1
セーフティプロモーション論	1
〔公衆衛生看護学関連科目〕	
○ 選択科目	
地域保健活動システム論	1
家族相談援助論	1
公衆衛生看護活動論 I	1
公衆衛生看護活動論 II	1
公衆衛生看護方法論 I	1
公衆衛生看護方法論 II	1
公衆衛生看護管理	1
公衆衛生看護展開論演習	1
公衆衛生看護学実習 I	2
公衆衛生看護学実習 II	3
〔養護教諭関連科目〕	
○ 選択科目	
養護概説	2
教職実践演習 (養護教諭)	2
養護実習	5

履修方法 (看護学科)

必修科目109単位、選択科目17単位、選択科目の最低履修単位数を超える修得単位数2単位以上、計128単位以上履修しなければならない。

卒業単位一覧表

授業区分	必修・選択の区分	
	必修	選択
基礎教育科目 (〔専門基礎科目〕)	24	2
入門・概論科目 (〔専門科目〕)	12	
応用・各論科目 (〔専門科目〕)	58	3
共通学芸科目		8
キリスト教・同志社関係科目	4	2
外国語科目	6	
スポーツ・健康科目		2
卒業研究	5	

(〔専門科目〕)		
選択科目の最低履修単位数を超える修得単位数		2
合計	109	19
	128	

〔別表 1－2〕

学芸学部 音楽学科 演奏専攻

科目名	履修単位
第一実技 I a	3
第一実技 I b	3
第一実技 II a	3
第一実技 II b	3
第一実技 III a	3
第一実技 III b	3
第一実技 IV a	3
第一実技 IV b	3
ピアノ実技 I a	1
ピアノ実技 I b	1
声楽実技 I a	1
声楽実技 I b	1

学芸学部 音楽学科 音楽文化専攻

科目名	履修単位
ピアノ実技 I a	1
ピアノ実技 I b	1
ピアノ実技 II a	1
ピアノ実技 II b	1
ピアノ実技 III a	1
ピアノ実技 III b	1
ピアノ実技 IV a	1
ピアノ実技 IV b	1
声楽実技 I a	1
声楽実技 I b	1
声楽実技 II a	1
声楽実技 II b	1
声楽実技 III a	1
声楽実技 III b	1
声楽実技 IV a	1
声楽実技 IV b	1

薬学部 医療薬学科

科目名	履修単位
薬学特別演習 a	8
薬学特別演習 b	8

〔別表 2〕

I 教科又は教職に関する科目

科目名	履修単位	
道徳教育論	2	幼一種免、高一種免のみ
児童理解と指導	2	幼一種免のみ
学校経営と学校図書館	2	中一種免、高一種免のみ

学校図書館メディアの構成	2	中一種免、高一種免のみ
学習指導と学校図書館	2	中一種免、高一種免のみ
教職特別演習 I	2	中一種免、高一種免のみ
教職特別演習 II	2	中一種免、高一種免のみ

II 栄養に係る教育に関する科目（栄養教諭課程）

科目名	履修単位
学校栄養教育論 I	2
学校栄養教育論 II	2

III 養護に関する科目（養護教諭課程）

科目名	履修単位
疫学	2
公衆衛生学	2
学校保健	2
養護概説	2
公衆衛生看護学概論	2
健康教育論	1
基礎栄養学	2
体のしくみ	2
微生物学・免疫学	2
基礎薬理学	2
精神看護学概論	2
看護学概論	2
ヘルスアセスメント	1
フィジカルアセスメント	1
生活援助技術	2
母子保健看護概論	2
災害看護論	1
基礎看護学実習 I	1
小児看護学実習	2

IV 教職に関する科目（中等教育課程）

免許法施行規則に定める科目区分等		本学で開設する授業科目名	単位	履修方法	備考
科目	各科目に含める必要事項				
教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種機会の提供等	教職論	2	必修	
教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）	教育の原理	2	必修	
		発達と学習の心理学	2	必修	

	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	教育の制度と経営	2	必修	
教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	教育課程論	1	必修	
	・各教科の指導法 ・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	英語科教科教育法基礎 英語科教科教育法 A 英語科教科教育法 B 中学英語科教科教育法 国語科教科教育法基礎 国語科教科教育法 A 国語科教科教育法 B 中学国語科教科教育法 音楽科教科教育法基礎 音楽科教科教育法 A 音楽科教科教育法 B 中学音楽科教科教育法 情報科教科教育法 A 情報科教科教育法 B 社会科教科教育法基礎 社会科教科教育法 A 社会科教科教育法 B 中学社会科教科教育法 地理歴史科教科教育法 A 地理歴史科教科教育法 B 公民科教科教育法 A 公民科教科教育法 B 家庭科教科教育法基礎 家庭科教科教育法 A 家庭科教科教育法 B 中学家庭科教科教育法 教育方法及び技術	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		該当教科の指導法について「教科教育法基礎」「教科教育法A、B」必修 情報、地理歴史、公民は「教科教育法A、B」必修 「中学教科教育法」は中一種免必修
	・道徳の指導法	道徳教育論	2	必修	中一種免のみ
	・特別活動の指導法	特別活動論	1	必修	
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法	生徒指導	2	必修	
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談	2	必修	

教育実習	教育実習 A（事前・事後指導を含む）	5	必修	中一種免 必修 高一種免 必修
	教育実習 B（事前・事後指導を含む）	3	必修	
	教育実習 C	2		
教職実践演習	教職実践演習（中・高）	2	必修	

V 教職に関する科目（栄養教諭課程）

免許法施行規則に定める科目区分等 科目		本学で開設する授業科目名	単位	履修方法	備考
教職の意義等に関する科目	各科目に含める必要事項				
	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種機会の提供等	教職論	2	必修	
教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	教育原理・学校教育論	2	必修	
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）	発達と学習の心理学	2	必修	
教育課程に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	教育課程論	1	必修	
	・道徳及び特別活動に関する内容	道徳教育・特別活動論	1	必修	
	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育方法及び技術	2	必修	
生徒指導及び教育相談に関する科目	・生徒指導の理論及び方法	生徒指導	2	必修	
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談	2	必修	
栄養教育実習		学校栄養教育実習（事前・事後指導を含む）	2	必修	
教職実践演習		教職実践演習（栄養教諭）	2	必修	

VI 教職に関する科目（養護教諭課程）

免許法施行規則に定める科目区分等 科目		本学で開設する授業科目名	単位	履修方法	備考
教職の意義等	・教職の意義及び教員の役割	教職論	2	必修	

に関する科目	・教員の職務内容（研修、サービス及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種機会の提供等				
教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育の原理	2	必修	
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）	発達と学習の心理学	2	必修	
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	教育の制度と経営	2	必修	
教育課程に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	教育課程論	1	必修	
	・道徳及び特別活動に関する内容	道徳教育論	2	必修	
		特別活動論	1	必修	
	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育方法及び技術	2	必修	
生徒指導及び教育相談に関する科目	・生徒指導の理論及び方法	生徒指導	2	必修	
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談	2	必修	
養護実習		養護実習	5	必修	（事前・事後指導を含む）
教職実践演習		教職実践演習（養護教諭）	2	必修	

VII 現代社会学部現代こども学科 教職に関する科目（初等教育課程）

免許法施行規則に定める科目区分等		本学で開設する授業科目	単位	履修方法	備考
科目	各科目に含める必要事項				
教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、サービス及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種機会の提供等	教職論	2	必修	
教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育の原理	2	必修	
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）	発達と学習の心理学	2	必修	

	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	教育の制度と経営	2	必修	
教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	教育課程論	2		小一種免 必修
		幼児教育課程総論	2		幼一種免 必修
	・各教科の指導法	国語科指導法	2		小一種免 必修
		社会科指導法	2		
		算数科指導法	2		
		理科指導法	2		
		生活科指導法	2		
		音楽科指導法	2		
		図画工作科指導法	2		
		家庭科指導法	2		
		体育科指導法	2		
	・保育内容の指導法	幼児教育内容総論	2		幼一種免 必修
		幼児教育指導法総論	2		
		保育内容（健康）	2		
		保育内容（人間関係）	2		
		保育内容（環境）	2		
		保育内容（ことば）	2		
		保育内容（表現）	2		
	・道徳の指導法	道徳教育論	2		小一種免 必修
	・特別活動の指導法	特別活動論	2		小一種免 必修
	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育方法と技術	2	必修	
生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目	・生徒指導の理論及び方法	児童理解と指導	2		幼一種免 必修
	・進路指導の理論及び方法				
	・幼児理解の理論及び方法	幼児理解	2		幼一種免 必修
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談	2	必修	
教育実習		初等教育実習 A（事前・事後指導を含む）	5		5単位必修
		初等教育実習 B（事前・事後指導を含む）	3		
		初等教育実習 C	2		
教職実践演習		教職実践演習（幼・小）	2	必修	

VIII 学校図書館司書教諭課程

学校図書館司書教諭講習規程に定める科目	本学で開設する授業科目名	単位	履修方法	備考
学校経営と学校図書館	学校経営と学校図書館	2	必修	

学校図書館メディアの構成	学校図書館メディアの構成	2	必修	
学習指導と学校図書館	学習指導と学校図書館	2	必修	
読書と豊かな人間性	読書と豊かな人間性	2	必修	
情報メディアの活用	情報メディアの活用	2	必修	

IX 保育士課程

必修科目

児童福祉法施行規則に定める科目	本学で開設する授業科目名	単位	履修方法	備考
保育原理	保育原理	2	必修	
教育原理	教育の原理	2	必修	
児童家庭福祉	こども福祉論	2	必修	
社会福祉	社会福祉論	2	必修	
相談援助	相談援助	1	必修	
社会的養護	社会的養護	2	必修	
保育者論	教職論	2	必修	
保育の心理学Ⅰ	発達と学習の心理学	2	必修	
保育の心理学Ⅱ	保育の心理学	1	必修	
子どもの保健Ⅰ	こどもの保健ⅠA	2	必修	
	こどもの保健ⅠB	2	必修	
子どもの保健Ⅱ	こどもの保健Ⅱ	1	必修	
子どもの食と栄養	こどもの食と栄養	2	必修	
家庭支援論	家庭支援論	2	必修	
保育課程論	幼児教育課程総論	2	必修	
保育内容総論	幼児教育内容総論	2	必修	
保育内容演習	保育内容（健康）	2	必修	
	保育内容（人間関係）	2	必修	
	保育内容（環境）	2	必修	
	保育内容（ことば）	2	必修	
	保育内容（表現）	2	必修	
乳児保育	乳児保育	2	必修	
障害児保育	障がい児保育	2	必修	
社会的養護内容	社会的養護内容	1	必修	
保育相談支援	保育相談支援	1	必修	
保育の表現技術	国語	2	必修	
	音楽	2	必修	
	図画工作	2	必修	
	体育	2	必修	
保育実習Ⅰ	保育実習ⅠA	2	必修	
	保育実習ⅠB	2	必修	
保育実習指導Ⅰ	保育実習指導ⅠA	1	必修	
	保育実習指導ⅠB	1	必修	
保育実践演習	教職実践演習（幼・小）	2	必修	

選択必修科目

児童福祉法施行規則に定める科目	本学で開設する授業科目名	単位	履修方法	備考
-----------------	--------------	----	------	----

保育の本質・目的に関する科目	幼児・児童教育論	2	選択	
	社会保障と福祉	2	選択	
保育の対象の理解に関する科目	生涯発達心理学	2	選択	
	心理臨床学	2	選択	
	対人関係心理学	2	選択	
	家族臨床心理学	2	選択	
	こどもの発達心理学	2	必修	
保育の内容・方法に関する科目	こどもスポーツ論	2	選択	
保育実習Ⅱ	保育実習Ⅱ	2	選択	
	保育実習指導Ⅱ	1	選択	
保育実習Ⅲ	保育実習Ⅲ	2	選択	
	保育実習指導Ⅲ	1	選択	

教養科目

児童福祉法施行規則に定める科目	本学で開設する授業科目名	単位	履修方法	備考
体育	からだの科学	2	選択	
	ウェルネス健康論	2	選択	
	食物と健康	2	選択	
	スポーツ文化論	2	選択	
	体育実技 A	1	選択	
	体育実技 B	1	選択	
	スポーツ実習 A	1	選択	
	スポーツ実習 B	1	選択	
外国語	英語講読 I A	1	選択	
	英語講読 I B	1	選択	
	英語コミュニケーション I A	1	選択	
	英語コミュニケーション I B	1	選択	
外国語・体育以外の科目	聖書 A	2	選択	
	聖書 B	2	選択	
	キリスト教の歴史 A	2	選択	
	キリスト教の歴史 B	2	選択	
	キリスト教の歴史 C	2	選択	
	キリスト教文化論 A	2	選択	
	キリスト教文化論 B	2	選択	
	キリスト教文化論 C	2	選択	
	キリスト教世界の探求 A	2	選択	
	キリスト教世界の探求 B	2	選択	
	キリスト教世界の探求 C	2	選択	
	近代日本と同志社 A	2	選択	
	近代日本と同志社 B	2	選択	
	近代日本と同志社 C	2	選択	
	近代日本と同志社 D	2	選択	

X 保健師課程

必修科目

保健師助産師看護師学校養成所指定規則の保健師学校養成所の指定基準における教育内容	本学で開設する授業科目名	単位	履修方法	備考
疫学	疫学	2	必修	
疫学・保健医療福祉行政論	公衆衛生学	2	必修	
保健医療福祉行政論	保健医療システム論	2	必修	
保健統計学	保健医療統計	2	必修	
公衆衛生看護学	看護コミュニケーション論	1	必修	
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2	必修	
公衆衛生看護学	健康教育論	1	必修	
公衆衛生看護学	国際保健	1	必修	
公衆衛生看護学	地域保健活動システム論	1	必修	
公衆衛生看護学	家族相談援助論	1	必修	
公衆衛生看護学	公衆衛生看護活動論Ⅰ	1	必修	
公衆衛生看護学	公衆衛生看護活動論Ⅱ	1	必修	
公衆衛生看護学	公衆衛生看護方法論Ⅰ	1	必修	
公衆衛生看護学	公衆衛生看護方法論Ⅱ	1	必修	
公衆衛生看護学	公衆衛生看護管理	1	必修	
公衆衛生看護学	公衆衛生看護展開論演習	1	必修	
臨地実習	公衆衛生看護学実習Ⅰ	2	必修	
臨地実習	公衆衛生看護学実習Ⅱ	3	必修	
公衆衛生看護学	学校保健	2	必修	

〔別表3〕

学費

(単位：円)

学部・学科等名		入学金	授業料	教育充実費	実験実習料
学芸学部 音楽学科 演奏専攻	初年度	260,000	1,122,000	300,000	70,000
	2年次以降	—	1,258,000	300,000	70,000
音楽学科 音楽文化専攻	初年度	260,000	1,030,000	300,000	70,000
	2年次以降	—	1,158,000	300,000	70,000
学芸学部 メディア創造学科	初年度	260,000	856,000	300,000	130,000
	2年次以降	—	988,000	300,000	130,000
学芸学部 国際教養学科	初年度	260,000	760,000	300,000	—
	2年次以降	—	910,000	300,000	—
現代社会学部 社会システム学科	初年度	260,000	742,000	300,000	—
	2年次以降	—	874,000	300,000	—
現代社会学部 現代こども学科	初年度	260,000	823,000	300,000	28,000
	2年次以降	—	947,000	300,000	28,000
薬学部 医療薬学科	初年度	260,000	1,100,000	300,000	600,000
	2年次以降	—	1,340,000	300,000	600,000
看護学部 看護学科	初年度	260,000	1,190,000	300,000	—
	2年次以降	—	1,420,000	300,000	—

表象文化学部	初年度	260,000	742,000	300,000	—
英語英文学科	2年次以降	—	874,000	300,000	—
表象文化学部	初年度	260,000	750,000	300,000	—
日本語日本文学科	2年次以降	—	874,000	300,000	—
生活科学部	初年度	260,000	823,000	300,000	28,000
人間生活学科	2年次以降	—	947,000	300,000	28,000
生活科学部	初年度	260,000	856,000	300,000	51,000
食物栄養科学科	2年次以降	—	988,000	300,000	51,000
食物科学専攻	初年度	260,000	923,000	300,000	60,000
食物栄養科学科	2年次以降	—	1,055,000	300,000	60,000
管理栄養士専攻					

休学在籍料

1年休学	120,000円
半年休学	60,000円
科目等履修生	
登録料（継続して履修の場合は初年度のみ）	24,000円
受講料（1単位当たり）	10,000円
ただし、本学大学院生及び専攻科生が履修する場合は、登録料及び受講料は無料とする。	
聴講生	
聴講料（1科目当たり）	8,000円
ただし、本学大学院生及び専攻科生が聴講する場合は、聴講料は無料とする。	

〔別表4〕

入学検定料	35,000円
大学入試センター試験を利用する入学試験の検定料	15,000円
転入学生及び編入学生の入学金は、260,000円とし、学費は、転入学又は編入学を許可された年次に在籍する学生と同額とする。	
ただし、本学及び本学短期大学部卒業生に限り、入学金は2分の1とする。	